

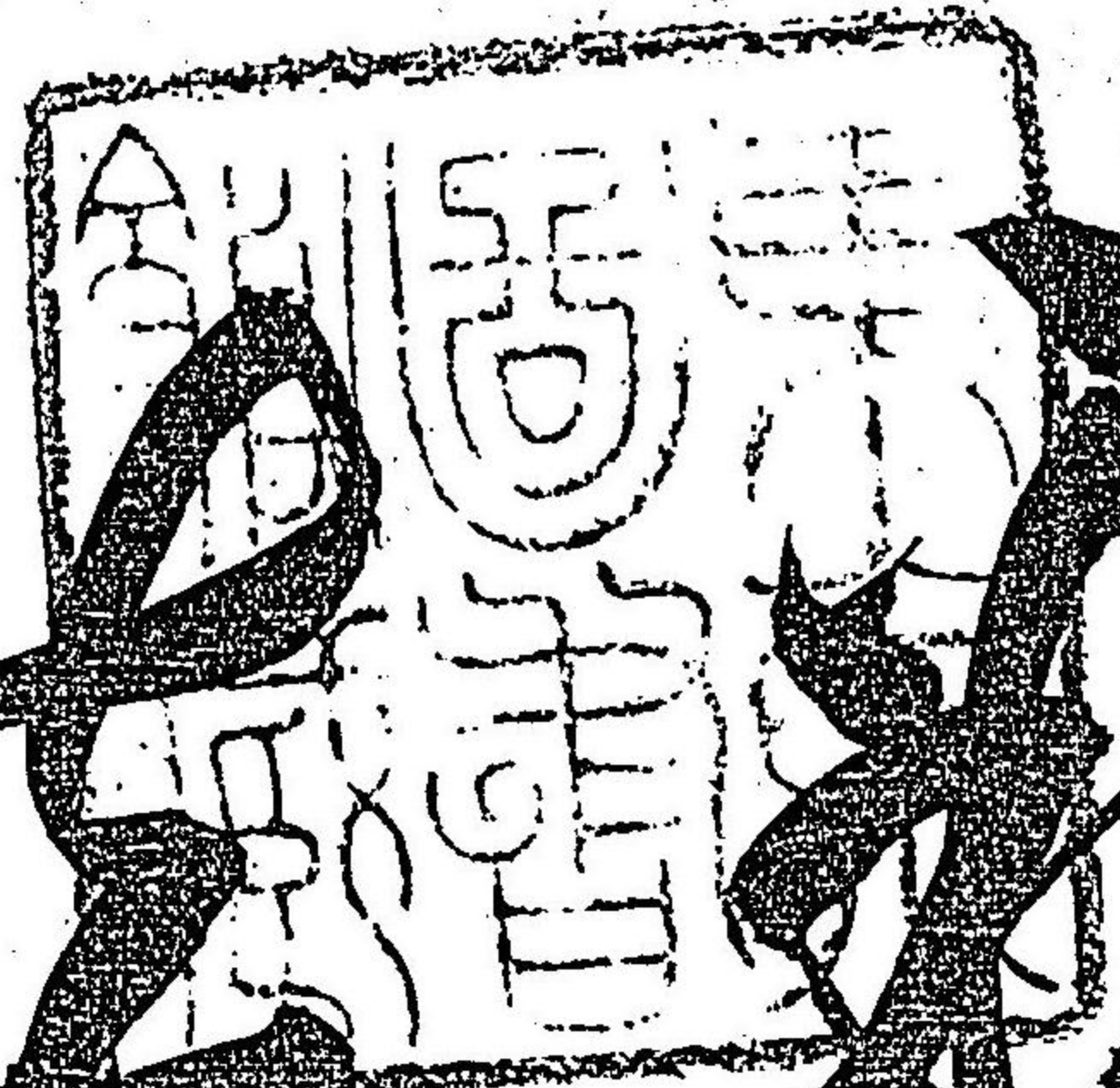
判事 奥村正人 著

約束手形實用註釋

東京

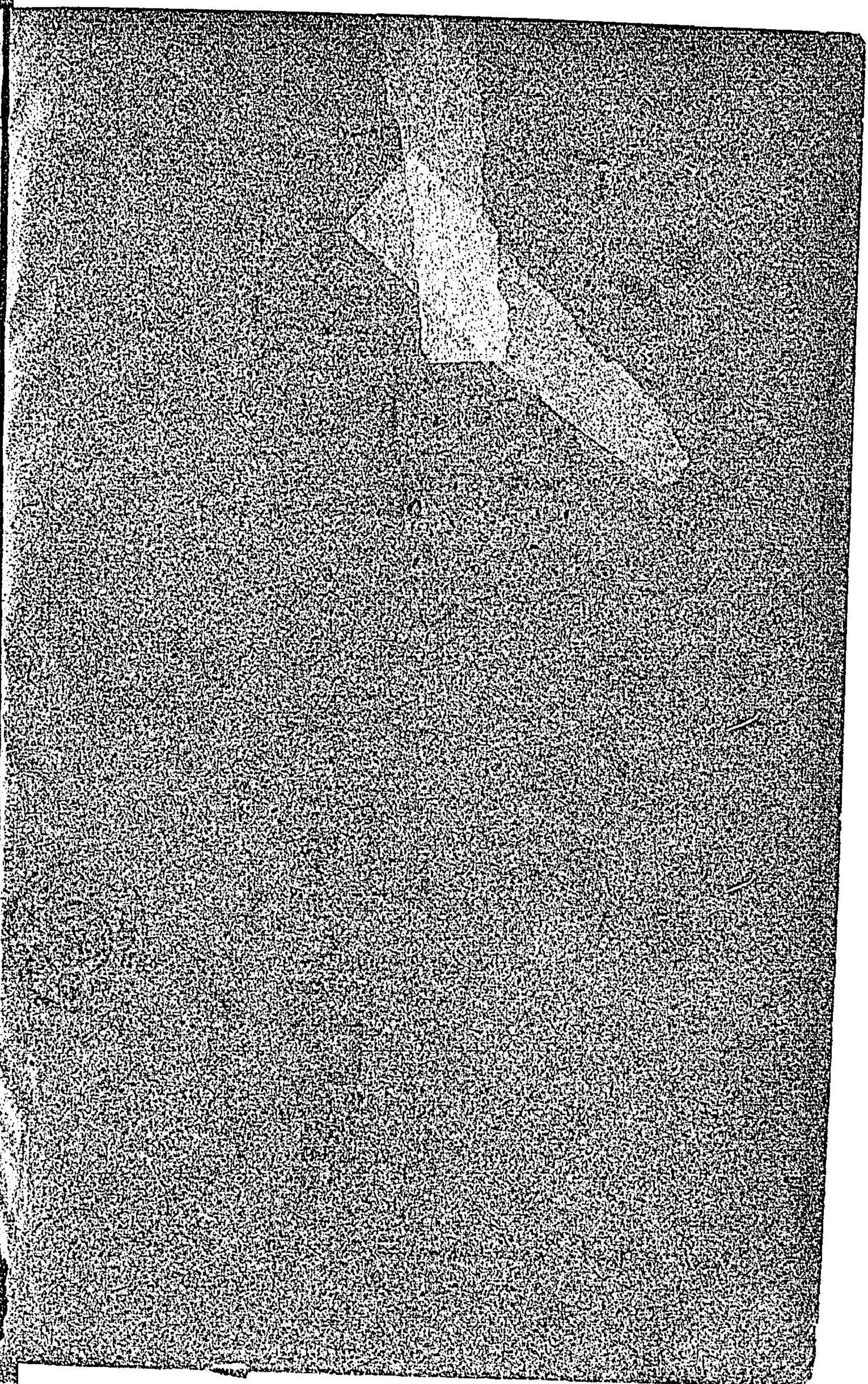
青木嵩山堂出版

海嶽



五洞

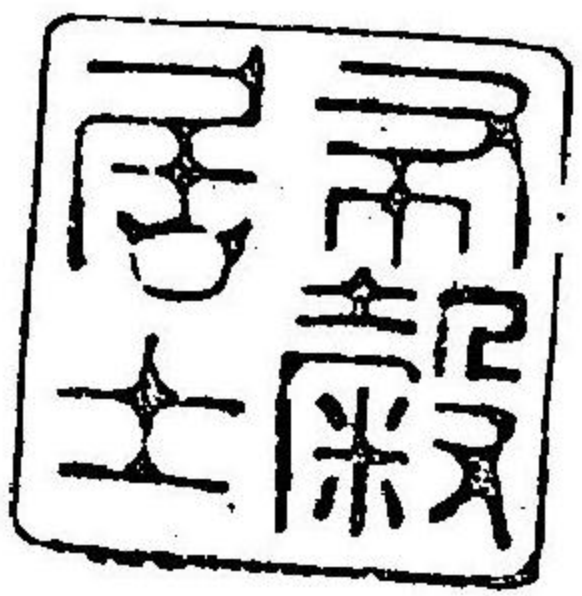
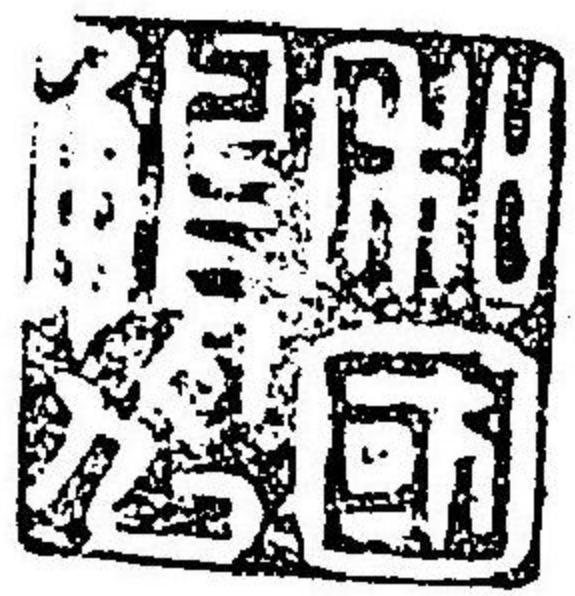
樓



丙

申
名

小島
浩
房



例言

一本書ハ約束手形ノ振出人ト所持人トノ使用上ニ關
スル手續ヲ會得セシムル爲メニ著シタルモノナリ
故ニ苟モ實際ノ使用ニ關スル手續上ノ細大ト
チク之レヲ掲ケテ最モ詳密ナル釋義ヲ加ヘタルモ
ノナリトス

一本書ハ第一章ヨリ第二十二章ニ分チ順次使用上ノ
手續ヲ掲ケ終リニ所持人ノ使用スヘキ實例ヲモ明
示シタルモノナレハ手形法規定ノ順序ハ大ニ變更
スルニ似タル所アルモ實際ノ使用上ニ於テハ最モ
便利ヲ與フルモノトス

一本書ハ最終ノ釋義ノ末尾ニ約束手形ノ使用上ニ關

スル一切ノ書式并ニ手形法ヲ掲ケ之ヲ使用上ノ便
 ニス
 一本書各章釋義中重要ナル事項ハ圈点ヲ加ヘ且ツ特
 ニ重要ナル事項ハ之レヲ重複ニ掲クル所アルヘシ
 是レ蓋シ讀者ノ注意ヲ惹起スルカ爲メナリトス
 一本書各章釋義ノ冒頭ニハ順次番号ヲ附シ之ヲ索引
 ノ便ニス
 一書中手形法上ノ用語ト一般ノ法律語トヲ用フルモ
 ノハ悉ク俗言ヲ以テ之ヲ譯セルモ一度譯セルモノ
 ハ後ニ同語ヲ用フルモ再ヒ之ヲ譯セサルモノナリ
 是レ力メテ簡便ニ從フカ故ナリ讀者之ヲ諒セヨ

著 者 識

目 録

第一章	約束手形ノ性質及ヒ効用	壹	丁
第二章	約束手形ノ權利及ヒ義務	二	丁
第三章	約束手形ノ義務ヲ負フ資格ヲ有スル者及ヒ義務ヲ負フ資格ヲ有セサル者	三	丁
第四章	約束手形ヲ振出ス方法	七	丁
第五章	約束手形ヲ讓受クルニ付注意ヲ要スヘキ事項	十四	丁
第六章	約束手形ノ讓渡ス方法	十六	丁
第七章	約束手形裏書讓渡ノ變例	二十	丁
第八章	一覽後定期拂ノ約束手形ヲ呈示スル事	二十五	丁
第九章	約束手形ノ保證	二十七	丁
第十章	約束手形金ノ支拂請求ヲ爲スヘキ手續	三十	丁

第十一章	約束手形ノ支拂ヲ拒マレタル時ニ爲スヘキ手續	三十六丁
第十二章	拒證書作成ノ方式	四十一丁
第十三章	約束手形ノ償還請求ヲ爲ス方法並ニ償還受クル手續	四十七丁
第十四章	違式ノ約束手形ノ無効タル事	五十三丁
第十五章	違式ノ約束手形ノ有効タル事	五十九丁
第十六章	偽造變造ノ約束手形金ノ支拂請求及ヒ償還請求ヲ爲ス方法	六十四丁
第十七章	約束手形ノ支拂請求權及ヒ償還請求權ニ關スル時効	六十七丁
第十八章	約束手形ノ時効期間ヲ中斷スル方法並ニ時効ヲ消滅セシムル方法	七十三丁
第十九章	約束手形上ノ權利ヲ失フ事	七十六丁

第二十章	約束手形ヲ盜取セラレ又ハ紛失セシメタル等ノ場合ニ要スヘキ手續	七十七丁
第二十一章	約束手形所持人ノ注意ヲ要スヘキ事項	八十三丁
第二十二章	約束手形所持人ノ行使スル實例	九十八丁

改正商法手形法目錄

總則

- 第一節 爲替手形
- 第一款 振出
- 第二款 裏書
- 第三款 引受
- 第四款 榮譽引受
- 第五款 保證
- 第六款 支拂
- 第七款 榮譽支拂
- 第八款 償還請求
- 第九款 拒證書作成

四

百三十三丁
 百三十七丁
 百三十七丁
 百三十九丁
 百四十一丁
 百四十五丁
 百四十七丁
 百四十七丁
 百五十一丁
 百五十二丁
 百五十六丁

- 第十款 戻爲替手形
- 第十一款 資金
- 第二節 約束手形
- 第三節 小切手

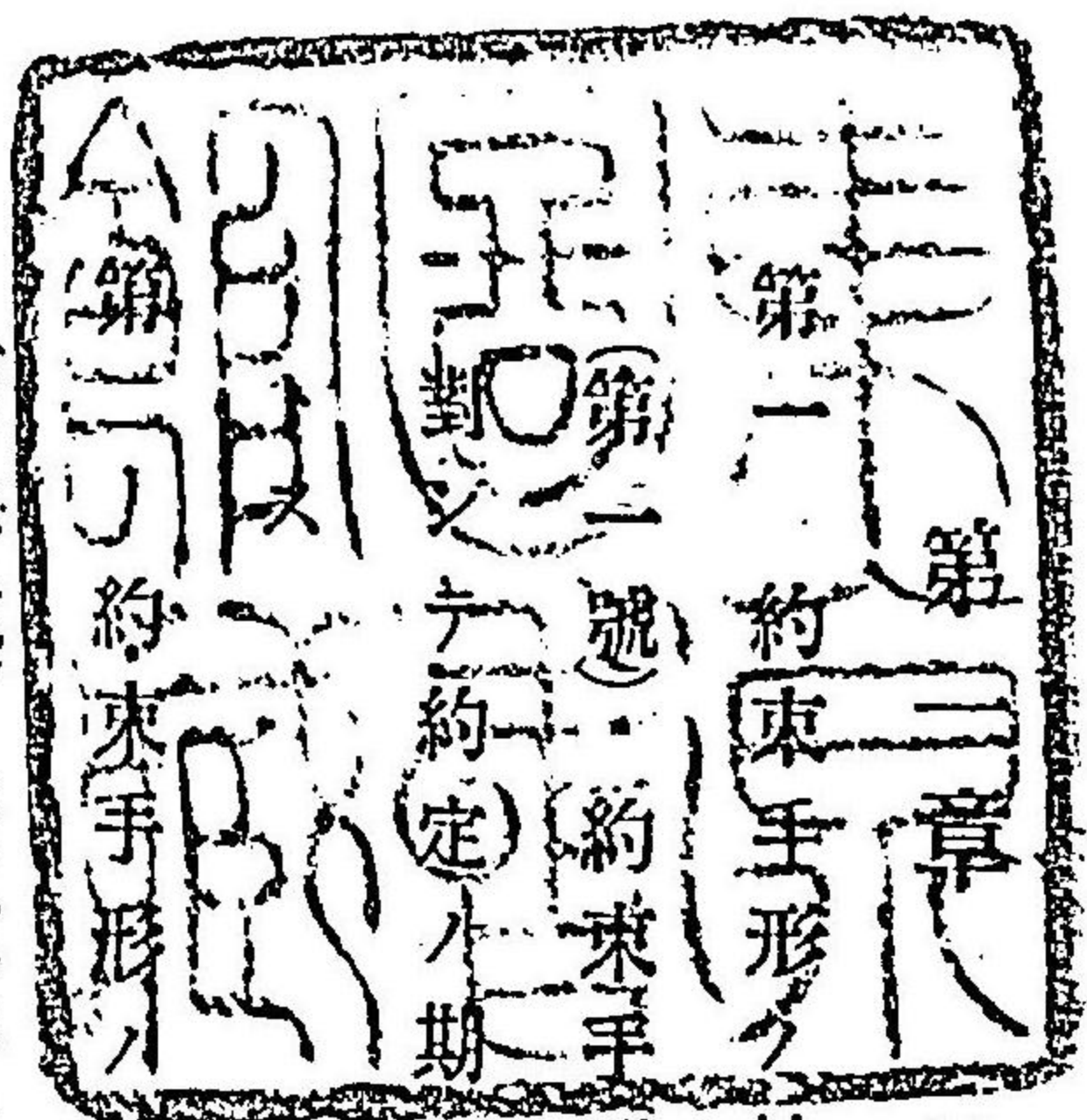
百五十九丁
 百六十丁
 百六十二丁
 百六十三丁

改正商法手形法目錄終

五

約束手形實用註釋

判事 奥村正人著



約束手形ノ性質及ヒ効用

第一章 約束手形ノ性質

第一號 約束手形ハ振出人ヨリ受取人又ハ其指圖セラレタル人ニ對シテ約定ノ期日ニ一定ノ金額ヲ支拂フヘキ一種ノ信用證券ナリ

(第二號) 約束手形ノ効用ハ商人ノ信用ヲ以テ通貨ヲ代用スルニ在

リ例ヘハ商人ノ取引上現金拂ニ代テ約束手形ヲ振出スヤ其支拂期

日迄ノ間ハ之ヲ受取タル人ヨリ他ニ讓渡スルヲ得ルモノナルカ故
ニ商業上ニ於テハ欠クヘカテサル効用アリトス

第二章 約束手形上ノ權利及ヒ義務

第一 約束手形上ノ權利

(第三號) 約束手形上ノ權利トハ約束手形ヲ所有スル人ニ屬スルモノニシテ即チ約束手形ノ支拂期日ニ支拂ヲ受クルト又ハ支拂ヲ拒マレタル前裏書讓渡人若クハ保證人ニ對シテ約束手形金ノ償還(辨償ノ)ヲ請求スルト並ニ是等ノ權利ヲ保全スル爲メニ行フトヲ得ヘキ諸般ノ權利ヲ云フ

第二 約束手形上ノ義務

(第四號) 約束手形上ノ義務トハ約束手形ノ振出人裏書讓渡人又ハ保證人トナリタル者カ約束手形金ノ支拂又ハ償還ヲ爲スノ義務ヲ

云フ

第三章 約束手形上ノ義務ヲ負フ資格ヲ有スル者及ヒ義務ヲ負フ資格ヲ有セサル者

(第七百條第十條第二條)

第一 約束手形上ノ義務ヲ負フ資格ヲ有スル者

- (一) 獨立シテ商ヲ爲スルヲ得ル成年ノ男女
 - (二) 適法ニ父母又ハ後見人ノ承諾ヲ受ケ獨立シテ商ヲ爲ス十八才ニ滿チタル未成年ノ男女
 - (三) 夫ノ承諾ヲ受クルカ又ハ夫ヨリ遺棄セラレ若クハ必要ノ給養ヲ與ヘテレサル有夫ノ婦
 - (四) 後見人ニ依テ商ヲ爲ス者又ハ補佐人ノ立會ニテ商ヲ爲ス者
- (第五號) 手形上ノ義務ハ商事上ノ義務ナル故ニ法律ハ此義務ヲ負

フ資格モ亦商ヲ爲スヲ得ル者ノミニ制限セリ、而シテ商ヲ爲スヲ得ル者即チ手形上ノ義務ヲ負フヲ得ル者トハ第一乃至第四ニ掲クル者ヲ云フ其(第一)ハ未成年者又ハ有夫ノ婦若クハ禁治産者白痴瘋癲人及ヒ浪費者等ニ非サル成年ノ男女ヲ云ヒ(第二)ハ年齢十八才ニ滿チタルト父母又ハ後見人ノ承諾ヲ受ケタルト獨立シテ商ヲ爲スト並ニ右ノ三條件ヲ記載シ之ニ自己及ヒ父母又ハ後見人ノ署名捺印シタル陳述書ヲ管轄裁判所ニ差出シテ登記ヲ受ケタル男女ヲ云ヒ(第三)ハ夫ヨリ商ヲ爲スヲ得ル旨ノ承諾ヲ受ケタルカ又ハ夫ヨリ遺棄即チ置キ去リニセラル、カ若クハ夫ト別居シテ夫ヨリ必要ナル養料等ヲ與ヘラレタル有夫ノ婦ヲ云ヒ(第四)ノ後見人ニ依テ商ヲ爲スモノトハ未成年者及ヒ民事上ノ禁治産者即チ精神ヲ失ヒタル白痴瘋癲人、並ニ民事上ノ禁治産者、即チ重罪ノ刑ニ處セラレ

タル者ヲ云ヒ、補佐人ノ立會ニ依リ商ヲ爲ス者トハ民事上准禁治産者即チ病氣等ニ依リ精神ノ衰弱シタル者、聾啞者、盲者、浪費者、ヲ云フ次ノ第六號ノ説明ヲ參看スヘシ

第二 約束手形上ノ義務ヲ負フ資格ナキ者

(一) 未成年者
(二) 民事上ノ禁治産者精神ヲ失フタル常況ニ在ル者即チ白痴、瘋癲人)

(三) 民事上ノ准禁治産者(精神ノ耗弱シタル者、聾啞者、盲者、浪費者)

(四) 刑事上ノ禁治産者重罪ノ刑ニ處セラレタル者

(五) 有夫ノ婦

(第六号) 獨立シテ約束手形上ノ義務ヲ負フ資格ナキ者ハ第一乃至第五ニ掲クル者ヲ云フ其(第一)ハ年齢二十才ニ滿タサルヲ以テ十分

ニ智能ノ發達セサル者(第二)ハ痴愚ノ人又ハ發狂人ニシテ是非ノ辨別ナキ者(第三)ハ精神ノ耗弱シタル者、聾啞者、盲者、浪費者、ニシテ其精神ノ耗弱シタル者トハ病氣等ニ依リ殆ント是非ノ辨別ナキニ至レル者、聾啞者ハ耳聽ク能ハス口言フ能ハス盲者ハ目視ル能ハサル者ナレハ共ニ不具ノ人ニシテ事理ヲ辨セサル者、浪費者ハ徒ラニ金錢ヲ消耗シ財産ノ收支ニ識別ナキ者(第四)ハ重罪ノ刑ニ處セラレ財産ノ管理權ヲ剝奪セラレタル者(第五)ハ夫ヲ有スル婦女ナルヲ以テ財産權ノ一ハ總テ夫ノ指揮ニ從ハサルヘカラサル者ナリトス元モ以上ノ者ト雖モ絶對的ニ約束手形上ノ義務ヲ負フ資格ナシト云フヘカラス即チ前號ニ掲グル如ク十八才ニ滿チタル未成年者ハ父母又ハ後見人ノ承諾ヲ受ケ白痴瘋癲人及ヒ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ後見人ニ依リ精神ノ衰弱シタル者、聾啞者、盲者、浪費者、ハ補佐人ノ

立會ニ依リ手形上ノ義務ヲ負フヲ得ルモノトス前號參看スヘシ

第四章 約束手形ヲ振出ス方法

第一 約束手形ヲ指圖式ト爲ス(第六百九十九條)

(第七號) 指圖式ハ記名式ノ一種ニシテ約束手形金ノ支拂受クル人ヲ特定スルモノナリ例ヘハ何某殿カ又ハ何某殿ノ指圖セラレタル人ニ支拂フヘシト云フヲ手形面ニ記入シ其豫定シタル人又ハ其指圖セラレタル人ノ外ニハ支拂ヲ爲サル方法ナリ

第二 約束手形ヲ無記名式ト爲ス(第六百六十九條)

(第八號) 無記名式ハ此約束手形ヲ所持スル人ニ支拂フヘシト云フヲ手形面ニ記入スルモノニシテ指圖式ノ如ク支拂受クル人ヲ豫定セサルモノナリ故ニ支拂期日ニ支拂ヲ求ムル所持人ニハ其何人タルヲ問ハズ支拂ヲ爲サヘカラザモノナリトス

第三 約束手形ノ支拂期日ヲ定ムル

(一) 單純ニ定メタル期日拂ト爲ス(第七百十九條)

(二) 日付後ニ定メ期日拂ト爲ス(第七百十九條)

(三) 一覽拂ト爲ス(第七百十九條)

(四) 一覽後定期拂ト爲ス(第七百十九條)

(第九號) 單純ニ定メタル期日拂トハ何月何日ニ支拂フヘシト期日ヲ定ムルヲ云フ今日實際ニ於テモ此支拂期日ノ定メ方ニ依ルモノ多シ日付後ニ定メタル期日拂トハ振出ノ日ヨリ二十日目又ハ三十日目ヲ支拂期日ト爲スヲ云ヒ一覽拂トハ約束手形ヲ一覽シタル時ヲ支拂期日ト爲スヲ云ヒ一覽後定期拂トハ所持人ヨリ約束手形ノ呈示ヲ受ケテ之ヲ一覽シタル時ヨリ十日目又ハ二十日目ヲ支拂期日ト爲スヲ云フ

第四 約束手形ヲ他所拂ト爲ス(第七百二十一條)

(第十號) 他所拂トハ約束手形ノ振出地外ナル他所ヲ支拂地トシ其地ノ者ヲ支拂人ト爲シテ之ヲ手形面ニ掲クルヲ云フ例ヘハ大阪ニ本店ヲ有スル商人カ東京ニ支店ヲ有スル場合ニ東京ノ取引先キニ對シ東京ノ支店ヲ支拂人トシテ大阪ノ本店ヨリ約束手形ヲ振出ス等ノ類ヲ云フ元來振出地ト支拂地トヲ異ニスル場合ニハ爲替手形ヲ振出ス多シ然レモ約束手形ハ取引ノ手續キ簡易ナルカ故ニ右例示ノ如キ場合ニハ他所拂ト爲シタル約束手形ヲ振出ス方最モ便利ナリトス

第五 裏書讓渡ヲ禁止スルヲ得ル(第七百二十二條)

(第十一號) 裏書讓渡ヲ禁止スルトハ約束手形面ニ裏書讓渡ヲ禁止スル旨ヲ記入スルヲ云フ是レ振出人ノ知ラサル者ニ支拂義務者ト

ナルヲテ避クルノ方法ナリトス

第六 額面貳拾五圓以下ノ約束手形ハ無記名式ト爲スヲ得サルヲ(第七百十八條)

(第十二號) 無記名式ノ約束手形ハ裏書ノ方式ヲ要セス恰モ紙幣ト同様交付ノミヲ以テ讓渡スヲ得ルモノナレハ若シ金額ニ制限セサルハ紙幣ヲ發行スルカ如キ觀ヲ呈スルヲナシトセス故ニ金額ヲ貳拾五圓以上ニセハ公衆ノ注意ヲ要スルニ依リ自ラ濫用スルノ弊ヲ防クニ至ルヘキヲ以テナリ

第七 約束手形ハ自己ノ指圖ニテ振出スヲ得サルヲ(第八百十二條)

(第十三號) 自己ノ指圖ニテ振出ストハ振出人自ラ受取人トナリ又ハ振出人ノ指圖シタル者カ受取人トナルヲ云フ故ニ爲替手形ニハ特ニ支拂人アルヲ以テ之レヲ許サレタルモ約束手形ハ振出人ニシ

テ支拂人ヲ兼ルモノナレハ自己ノ指圖式ニテ振出スハ一身ニシテ受取人ト支拂人ト二箇ノ分限ヲ有セサルヘカテサルニ到リ法律上契約ノ成立スヘカテサルモノトナルニ依リ之ヲ禁シタルモノナリトス

第八 約束手形ヲ發行スルニハ證券印紙稅則ニ依リ手形用紙ヲ用フヘキヲ

(第十四號) 約束手形ハ一種ノ證券ナルヲ以テ明治廿七年第十一號布告證券印紙稅則第二條第二類ニハ大藏省發行ノ手形用紙ヲ用フヘキモノト爲シタリ故ニ約束手形ヲ發行スルニハ必ス手形用紙ヲ用ヒサルヘカテス尤モ手形用紙ハ約束手形ノ金額ニ依リ其代價ト色合ト異ニスルモノナルヲ以テ約束手形ヲ發行スルニハ其金額ニ相當スル手形用紙ヲ用ヒサルヘカテサルモノナリトス左ニ明治十

七年太政官ノ布達第十二號ヲ掲ケ手形用紙ノ代價ヲ示シテ實用ノ便ニス

- (第一) 五十圓未滿 壹錢
- (第二) 五十圓以上百圓未滿 貳錢
- (第三) 百圓以上貳百圓未滿 四錢
- (第四) 貳百圓以上五百圓未滿 八錢
- (第五) 五百圓以上千圓未滿 拾五錢
- (第六) 千圓以上貳千圓未滿 貳拾五錢
- (第七) 貳千圓以上 五拾錢

茲ニ一言スヘキハ手形用紙ヲ用ヒサル約束手形ノ有効ナリヤ否ヤハ學者ノ疑問ニ屬スレモ今日證券印紙稅則ノ存スル限リハ之ヲ無効ト云ハサルヘカヲサルナリ

第九 約束手形ニ掲クヘキ事項(第七百十六條)

- (一) 振出ノ年月日
 - (二) 支拂ノ金額但シ文辭ヲ以テ記載スヘシ
 - (三) 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フヘキ旨
 - (四) 滿期日
 - (五) 約束手形ト引換ニテ支拂ヲ爲スヘキ旨
 - (六) 振出人ノ署名捺印
- (第十五號) 約束手形ニ掲クヘキ第一乃至第六ノ事項ハ約束手形ノ要件トシテ欠クヘカヲサルモノナリ故ニ若シ第一乃至第六ノ事項中其一チ欠クハ約束手形ノ効力ナキモノトス第五十七號參看スヘシ又約束手形ノ振出ハ第一號ノ書式ニ依ルヘシ

第五章 約束手形ヲ受領スルニ付注意ヲ要スヘキ事項

キ事項

- 第一 振出人ヨリ約束手形ヲ受領スルルニ注意スヘキ事項
- (一) 約束手形ニ記載スヘキ要件ノ具備スルヤ否ヤ
- (二) 無能力者ノ振出人トナリテ署名シタルモノニ非サルヲ
- (三) 外觀ノミヲ約束手形ニ装フタルモノニ非サルヲ
- (四) 支拂期日ヲ定メタル方法ノ適法ナルヤ否ヤ
- (五) 偽造ニ非サルヲ
- (第十六號) 約束手形ヲ振出人ヨリ受領スルニ付注意ヲ要スル事項
 ハ一ニシテ足ラスト雖モ其重ナルモノハ第一乃至第五ニ掲クルモノナリトス若シ此注意ヲ怠タルルハ約束手形ハ無効タルヲ又ハ手形上ノ權利ヲ失フアルベシ第九號第十五號第四十五號乃至第四

十七號第四十九號第五十號第五十二號參看スヘシ

第二 裏書人ヨリ約束手形ヲ讓受ルルニ注意スヘキ事項

- (一) 振出人ヨリ約束手形ヲ受領スル場合ト同一ノ注意ヲ要スルヲ
- (二) 裏書ニ記載スヘキ要件ノ具備スルヤ否ヤ
- (三) 偽造變造ノ裏書ニ非サルヲ
- (四) 盜取セラレ又ハ紛失セシメタル爲メニ公示催告中ニ非サルヲ
- (五) 讓渡ヲ爲ス人ノ無能力者又ハ身分ノ尤モ疑ハシカラサル者ナルヲ
- (六) 裏書ニ間斷ナキヲ
- (七) 支拂期日ヲ經過シタルモノニ非サルヲ
- (八) 償還請求權ヲ失フタルモノニ非サルヲ
- (九) 裏書禁止ノ記入ニ背キタルモノニ非サルヲ

(第十七號) 約束手形ヲ裏書人ヨリ讓受クル場合ニハ更ニ注意ヲ要スヘキモノ多シ其重要ナルモノハ第一乃至第九ニ掲クル事項ナリ此注意ヲ怠ルルハモ約束手形ノ無効タル事又ハ手形上ノ權利ヲ失フトアルヘシ第九號第十五號第二十四號第五十七號乃至第六十四號參看スヘシ

第六章 約束手形ヲ讓渡ス方法

第一 通常ノ裏書讓渡ヲ爲ス事(第七百二十二條)

(第十八號) 讓渡ヲ爲スニハ種々ノ方法アルモ通常ノ裏書讓渡ハ約束手形ノ裏面ニ讓渡ノ年月日場所及ビ讓受人ノ氏名ヲ記載シ之ニ讓渡人ノ署名捺印シテ讓渡ヲ爲スヘキモノトス尤モ此通常ノ裏書讓渡ノ方法ニ從ハサルモ次ノ第十九號及ビ第二十號ニ掲クル如ク約束手形ノ裏面ニ讓渡人ノ署名捺印ノミヲ爲シテ讓渡ヲ爲ストナ

モ得ヘシ又無記名式ノ約束手形ナルハ裏書ヲ爲サスシテ恰モ銀行紙幣ヲ授受スルカ如ク交付ノミヲ以テ讓渡ヲ爲スヲ得ヘキモノトス

第二 讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲ス(第七百二十三條)

(第十九號) 讓渡人ノ署名捺印ノミノ裏書讓渡トハ讓渡ノ年月日場所及ビ讓受人ノ氏名ヲ記入スルヲ要セス只約束手形ノ裏面ニ讓渡人ノ署名捺印ヲ爲シタルノミニテ裏書讓渡ヲ爲スモノトス

第三 裏書ヲ爲サスシテ交付讓渡ヲ爲ス(第七百二十五條)

(第二十號) 裏書ヲ爲サスシテ交付讓渡ヲ爲ストハ恰モ銀行紙幣ヲ授受スルカ如ク只讓受人ニ交付ノミニテ約束手形ヲ讓渡ヲ得ル最モ簡便ノ讓渡方法ナリ而シテ此交付讓渡ヲ爲シ得ルハ左ノ二個ノ

場合ニ限ルモノトス

(一) 無記名式ノ約束手形ヲ讓渡ス時

(二) 前所持人ヨリ署名捺印ノミノ裏書讓渡ヲ受ケタル約束手形ヲ讓渡ス時

右第二ノ場合ヲ反言セハ前號ノ署名捺印ノミノ裏書讓渡ヲ受ケタル約束手形ニ非サレハ交付ノミノ讓渡ヲ爲スヲ得サルモノトス

第四 裏書讓渡ノ禁止ナキ約束手形ノ所持人ハ其後ノ裏書讓渡ヲ禁止スルヲ得ルヲ

(第二十一號) 裏書讓渡ノ禁止ナキ約束手形ノ所持人モ其約束手形ノ裏書讓渡ノ禁止ヲ爲シ得ルハ當然ナリ其理由及ヒ禁止ヲ爲スノ方法ハ第十號ニ説明セルト同一ナルヲ以テ復説セス

第五 拒證書ノ作成ヲ免除スルヲ得ルヲ

(第二十二號) 拒證書ハ振出人ノ支拂ヲ爲サ、リシヲ裏書人ニ知ラシムル爲メニ作ルヘキ所持人ノ義務ナルカ故ニ裏書人ハ其作成ヲ免除スルヲ得ヘシ而シテ其免除ヲ爲スニハ約束手形ノ裏面即チ自己ノ裏書シタル所ニ拒證書ノ作成ヲ免除スル旨ノ記入ヲ爲スヘキモノトス尤モ前裏書人ニ於テ既ニ免除シタルモノナルハ別ニ免除スルヲ要セサルヤ勿論ナリ

第六 裏書ニハ裏書ヲ爲シタル日ヨリ以前ノ日付ニ爲スヘカテサルヲ(第七百二十四條)

(第二十三號) 裏書讓渡ヲ爲シタル日ヨリ以前ノ日付ニスルヲ禁ゼサルハ容易ニ詐欺ノ行ハル、トアルヘシ例ヘハ債務者カ財産ノ差押ヲ受クルニ當リ自己ノ所持スル手形ヲ藏匿シ密カニ之ヲ他人ニ藏匿シ其裏書ヲ以前ノ日付ニ爲シテ手形金ヲ脱漏スル等ノ類ナ

リ故ニ是等ノヲ防クカ爲メニ讓渡ノ日ヨリ以前ノ日付ニ裏書スルヲ禁シタルモノナリ若シ之ニ背キタルハ偽造變造ノ刑ニ處セラルヘシ

第七 約束手形ノ裏書讓渡ニ掲クヘキ事項(第七百二十三條)

- (一) 裏書ヲ爲シタル年月日
 - (二) 裏書ヲ爲シタル場所
 - (三) 裏書讓渡人ノ署名
 - (四) 裏書讓受人ノ氏名
- (第二十四號) 約束手形ノ裏書讓渡ニ掲クヘキ第一乃至第四ノ事項ハ通常ノ裏書讓渡ヲ爲スニ欠クヘカラサル要件ナリトス裏書ハ第三號ノ書式ニ依ルベシ

第七章 約束手形ノ裏書讓渡ノ變例

第一 支拂期日后ト雖モ裏書讓渡ヲ爲スヲ得ル(第七百廿六條)

(第二十五號) 約束手形ノ所持人ハ其支拂期日ノ經過スルモ之ヲ裏書ニテ讓渡ヲ爲スヲ得ベシ然レモ其後ノ讓受人ニ對シテハ假令拒證書ナキモ償還義務ヲ免カル、ヲ得サルモノナリトス

第二 無記名式ニテ振出タル約束手形ヲ指圖式ニテ讓渡ヲ爲スヲ得ル(第七百二十二條)

(第二十六號) 茲ニハ別ニ説明ヲ要セス其指圖式ト無記名式ノトハ第七號第八號ヲ參看スヘシ

第三 裏書讓渡禁止ノ記載アル約束手形モ所持人ハ裏書讓渡ヲ爲スヲ得ル(第七百三十三條)

(第二十七號) 裏書讓渡ヲ禁止スルハ面識ナキ者ニ對シテ支拂人トナリ又ハ償還義務者トナルヲ避クル爲メニシテ振出人又ハ裏書

人ニ於テ手形面ニ其禁止ノ旨ヲ記入シテ讓渡ヲ爲シタルモノナリ然レモ所持人ハ其禁止アルニ拘ラス之ヲ裏書ニテ讓渡シタルモハ其禁止ヲ爲シタルモノハ其後ノ所持人ニ對スル償還義務ハ之ヲ免カルヘシ然レモ禁止ニ背キテ裏書讓渡ヲ爲シタル者ハ其後ノ所持人ニ對シテハ償還義務ヲ負ハサルヘカテサルモノナリトス是レ禁止ヲ爲シタル者ノミ禁止ノ効果ヲ受クヘキモノナルカ故ナリ尤モ禁止ヲ爲シタル者ノ禁止ニ背キタル裏書人ニ對スル償還義務ハ其禁止ニ背カレタルカ爲メニ之ヲ免カル、トテ得サルモノナルニ依リ禁止ニ背キタル裏書人ニ於テ其後ノ所持人ニ償還義務ヲ盡シタルモハ禁止ヲ爲シタル前裏書人ニ對シ償還請求ヲ爲シ得ヘキハ勿論ナリ

第四 代理又ハ擔保即チ引當ノ爲メニ裏書讓渡ヲ爲スヲ得ル(第七

百二十九條第七百三十條第七百三十一條)

(第二十八號) 代理ノ爲メトハ約束手形金ノ取立又ハ約束手形ヲ他ニ讓渡サントスルニ當リ所持人ノ差聞アル時代理人ヲ頼ミ其約束手形ノ使用方ヲ辨セシムル爲メニ裏書讓渡ヲ爲スヲ云フ又引當ノ爲メトハ債主ニ對シ借主ノ引當トシテ裏書讓渡ヲ爲スヲ云フ之ヲ商法ニテハ代理裏書擔保裏書ト稱ス此裏書讓渡ヲ爲シタルモハ左ノ効果ヲ生スベシ

(一) 代理裏書ハ其約束手形面ニ代理ノ爲メタルトナ記載シタルト否トテ問ハス其代理人カ代理ノ爲メニ讓受ケタル約束手形ヲ他人ニ讓渡シタルモハ其代理ヲサシムル爲メノ裏書讓渡人ハ代理人ヨリ裏書讓渡ヲ受ケタル者及ヒ其後ノ所持人ニ對シテハ償還義務ヲ負ハサルヘカテサルモノナリトス

(二) 引當裏書モ其約束手形面ニ引當ノ爲メタルヲ記載シタルト
 否トナ問ハス其債權者カ引當ノ爲メニ讓受ケタル約束手形ヲ
 他人ニ讓渡タルルハ其引當ノ爲メノ裏書讓渡人ハ引當ニ讓受
 タル債權者ヨリ裏書讓渡ヲ受タル者及ヒ其後ノ所持人ニ對シ
 テハ償還義務ヲ負ハサルヘカヲサルモノナリトス然レモ引當
 ノ爲メタルヲ手形面ニ記載シ置キタルルハ若シ主タル債務
 ノ辨濟后ニ引當ノ爲メニ讓受ケタル債權者ヨリ裏書讓渡ヲ爲
 サ、ルヲアルモ其後ノ所持人ニ對シ償還義務ナキモノトス故
 ニ引當ノ爲メノ裏書讓渡ヲ爲シタル者ハ主タル債務ノ辨濟后
 ノ所持人ヨリ償還請求ヲ受クルモ既ニ主タル債務ヲ辨濟シタ
 リトノ抗辨ヲ以テ之ヲ拒絕スルヲ得ヘシ
 茲ニ注意ヲ要スルハ代理又ハ擔保即チ引當ノ爲メノ裏書讓渡

ヲ爲ス場合ニハ其代理又ハ擔保ノ爲メタルヲ之ヲ手形面ニ
 明カニ記載シ置クヲ完全ナリトス

第八章 一覽後定期拂ノ約束手形ヲ呈示スルヲ

第一 呈示期間ノ定メアルルハ其期間内ニ振出人ニ約束手形ヲ呈示

シテ引受ヲ求ムヘキヲ(第八百十四條第七百三十五條)

(第二十九號) 一覽後定期拂ノ約束手形ハ振出人カ手形ヲ一覽シタ
 ル后ニ非サレハ支拂期日ノ確定セサルモノナリ故ニ呈示ヲ爲スヘ
 キ期間ノ定メアルル例ヘハ明治廿八年二月二日ノ日付ヲ以テ振出
 シ同月十日ヨリ二十日迄ノ間ニ呈示スヘキモノト定メタルモノナ
 ルルハ其期間内ニ約束手形ヲ振出人ニ呈示スヘキモノトス然レモ
 若シ呈示期間ノ定メナキモノナルルハ振出ノ日ヨリ二ヶ年内ナレ
 ハ何時ニテモ呈示スルヲ得ルモノトス

第二 呈示シテ振出人ノ支拂義務ヲ引受ケサルルハ其次ノ營業日ニ
公証人又ハ執達吏ヲ頼ミ拒證書ヲ作成スヘキヲ(第七百三十五條)

(第三十號) 約束手形ヲ呈示スルモ振出人ニ於テ引受ヲ拒ミタル時

ハ(引受ヲ拒ムトハ支拂義務ヲ看認メヌ又ハ交拂期日ヲ定ムルヲ拒ム等ヲ云フ)其約束手形ノ支拂ハ不確實ナルニ依リ

之ヲ確實ナラシムル爲メノ擔保即チ引當ヲ要求スル準備トシテ呈

示ヲ爲シタル日ノ次ノ營業日(日曜日ハ祭日ニ非サル營業日ヲ云フ)ニ公証人又ハ執達吏ヲ

頼ミ引受ノ拒證書ヲ作成スヘキモノトス拒證書ハ第十號第十一號

書式ニ依ルヘシ

第三 拒證書ヲ作成シタルルハ其翌日前裏書人ニ對シ拒證書ヲ作成

シタルト及ヒ擔保ヲ請求スヘキ旨ヲ書面ニ依リ通知スヘシ(第七百

三十五條)

(第三十一號) 拒證書ヲ作成シタルルハ其翌日其作成シタルト及ヒ

擔保ヲ請求スヘキ旨ノ通知書ヲ作り之ヲ執達吏ニ頼ミ前裏書人ニ
送達スヘシ若シ執達吏ニ差支アルルハ自己又ハ雇人ヲ以テ送達ス
ルハ妨ケナキモ必ス其受領書ヲ取置クヘシ是レ他日通知ノ有無ニ
付爭ヲ生シタル時ノ證據ニ供スルカ爲メナリトス此通知書ハ第十
二號ノ書式ニ依ルヘシ

第四 拒證書ヲ作成シタルト及ヒ擔保ヲ求ムル通知ヲ爲シタルルハ
前裏書人ニ擔保ヲ要スヘキヲ(第七百三十九條
(第三十二號) 茲ニハ別ニ説明ヲ要セス

第九章 約束手形ノ保證ノ方法

第一 約束手形ノ保證ノ方法ハ左ノ二種ニ限ル

(一) 單純ナル保證

(二) 制限シタル保證

(第三十三號) 約束手形ノ振出人又ハ支拂人ノ信用セサルハ固ヨリ之ヲ讓受ケサルニ如スト雖モ止テ得ス讓受ケサルヘカテサル場合ニハ保証人ヲ立テシムルヲ要ス而シテ其保證ヲ爲サシムルニハ第一ノ單純ナル保證ノ方法ト第二ノ制限シタル保證ノ方法トノ二種アリ其單純ナル保證トハ何等ノ制限モナク單ニ保證スルモノニシテ乃チ手形金ノ全部ニ對スル保證ナリ故ニ此保證ハ手形金ノ全部ニ付主タル義務者(振出人又ハ前
裏書人ヲ云フ)ト連帶ノ責ニ任スルモノナリ又第二ノ制限シタル保證トハ支拂期日ヨリ幾十日間ニ限り支拂ヲ保證スルトカ又ハ拒證書作成ノ日ヨリ幾十日ニ限り償還義務ヲ保證スルトカ若クハ手形金ノ幾部ニ付支拂又ハ償還義務ヲ保證スルトカノ制限ヲ爲シテ保證スルヲ云フ此保證モ其制限ノ方法ニ依リ主タル義務者ト連帶ノ責ニ任スルモノナリトス

茲ニ一言スヘキハ所持人ニ於テ保證ヲ立テシムルハ單純ナル保證ヲ立テシムル方利益ナリトス

第二 保證ノ手續

- (一) 單純ナル保證ハ手形面ノ被保証人ノ署名ノ次ニ保證人トシテ署名捺印ヲ爲スヘキ
- (二) 制限シタル保證ハ手形面ニ其制限シタル方法ヲ明記シテ被保証人ノ署名ノ次ニ署名捺印スルカ又ハ制限シタル保證書ヲ作成スル

(第三十四號) 單純ナル保證ハ手形面ニ記入スルヲ通例トスルモ之ヲ別紙ノ保證書ニスルハ妨ケナシ又制限シタル保證ハ手形面ニ記入スルヲ通例トハ爲サ、ルナリ故ニ手形面ニ記入スルモ別紙ノ保證書ヲ作成スルモ隨意ナリトス其何レノ場合ト雖モ制限シタル方

法ハ之ヲ明カニ記載セサルヘカラス別紙保證書ハ第六號第七號ノ書式ニ依ルヘシ

第十章 約束手形ノ支拂請求ヲ爲スヘキ手續

第一 單純ニ支拂期日ヲ定メタル約束手形及ヒ日付后ニ定メタル約束手形ノ所持人ハ其満期日ニ振出人ニ支拂ヲ請求スヘキ(第七百七十八條)

(第三十五號) 單純ニ定メタル期日拂ト日付后ニ定メタル期日拂トノ(第九號)ニ説明スル所ナリ此等ノ手形ヲ所持スル者ノ振出人ニ對スル支拂請求權ハ仮令満期日ヲ經過スルモ之ヲ失フモノニ非ス然レモ満期日ノ次ノ營業日ニ拒證書ヲ作成セサレハ裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フニ依リ若シ振出人ニ於テ支拂ヲ爲サルハ損害ヲ受クルニ至ルヘシ因テ満期日ニハ支拂ノ請求ヲ爲ス

ヘキモノトス

第二 一覽拂ノ約束手形ハ何時ニテモ約束手形ヲ振出人ニ呈示シタル時ニ支拂ヲ請求スヘキ(第七百十九條第七百七十八條)

(第三十六號) 一覽拂ノ(第九號)ニ説明スル所ナリ此約束手形ハ振出人ニ呈示シタル時満期日トナルモノナルカ故ニ何時ニテモ隨意ニ振出人ニ呈示シテ支拂ヲ請求スヘシ然レモ若シ日付后ニケ年ヲ經過スルハ支拂請求權ヲ失フヘシ

茲ニ注意ヲ要スルハ支拂期日ヲ掲ケサル約束手形ハ一覽拂ノ約束手形トシテ行使スルヲ得ルモノナルカ故ニ斯ノ如キ約束手形ヲ所持スルハ本號ノ手續キニ依リ支拂ヲ請求スヘキモノトス

第三 一覽后定期拂ノ約束手形ハ呈示后ニ定メタル支拂期日ニ振出人ニ支拂ヲ請求スヘキ(第七百十九條第七百七十八條)

(第三十七號) 一覽后定期拂ノトモ第九號ニ説明スル所ナリ此手形ハ呈示後ニ支拂期日ノ確定スルモノナルカ故ニ其支拂期日ニ支拂ヲ請求スヘキモノトス

第四 支拂期日ニハ一分ノ支拂及榮譽支拂ハ之ヲ拒ムヘカラスアルト
(第七百六十一條第七百七十四條)

(第三十八號) 約束手形ノ所持人ハ一分ノ支拂及ヒ振出人ノ榮譽ノ爲メニ手形ニ關係ナキ他人ノ支拂スルヲ拒ムトヲ得サルモノトス故ニ若シ一分ノ支拂ヲ拒ムルハ一分ノ額面ニ付テハ償還請求權ヲ失フヘシ又榮譽支拂ヲ拒ムルハ其全部ノ償還請求權ヲ失フヘシ

第五 支拂期日ハ猶豫ヲ與フヘカラスアルト(第七百五十五條第二項)
(第三十九號) 民事上ノ貸借期限ニ猶豫ヲ與フルハ自由ナルモ約束手形ノ支拂期日ハ恩惠的ニ猶豫スルヲ許サルモノトス是レ手形

ノ信用ヲ重ンスルカ爲メナリ故ニ若シ猶豫ヲ與フルルハ爲メニ償還請求權ヲ失フヘシ

茲ニ注意ヲ要スルハ支拂地ニ於ケル習慣ノ支拂日ハ之ヲ遵守セサルヘカラスアルモノトス例ヘハ支拂日ヲ火木土ト爲シタル習慣アル土地ニ在テ支拂日カ月曜日ナルルハ其翌日ノ火曜日ニ支拂受クルノ類ナリ斯ノ如キ習慣ニ從フタルルハ手形面ノ支拂期日ノ翌日中ニ拒證書ヲ作成セサレサルモ償還請求權ヲ失フモノニ非ス然レモ予ノ考ニテハ内地ニ在テ個様ナル習慣ノアル地ハ實際ナカルヘシ

第六 支拂期日カ大祭日又ハ日曜日ノ如キ一般ノ休業日ニ當ルルハ其次ノ營業日ニ支拂請求ヲ爲スヘキト(第七百五十六條)

(第四十號) 民事上ノ債務ハ約束ノ期日ニ辨滿セサルヘカラスアルモ約束手形ノ金ハ大祭日ヤ日曜日ノ如キ一般ノ休業日ニハ支拂ヲ爲

ス義務ナキカ故ニ支拂期日カ一般ノ休業日ニ當ルルハ其次ノ營業日ニ支拂ヲ請求スヘキモノトス

第七 支拂受クルニハ左ノ手續キニ依ルヘシ

(一) 全部ノ支拂ヲ受クル時ハ約束手形面ニ受取ヲ記入シ之レト約束手形金ト引替ニ爲スヘキヲ(第七百六十一條)

(二) 一分ノ支拂ヲ受クル時ハ約束手形ノ返還ヲ爲サス約束手形面ニ一分ノ受取ヲ記入シ別ニ受取證ヲ作り之レト約束手形金ト引替ニ爲スヘキヲ(第七百六十一條)

(三) 榮譽支拂ヲ受クル時ハ拒證書面ニ約束手形金及ヒ拒書作成ノ費用ヲモ榮譽支拂人ヨリ榮譽支拂受ケタル旨ヲ記入シ其拒證書及ヒ約束手形ト榮譽支拂金(約束手形金及ヒ拒書作成ニ付テノ費用金ヲ云フ)ト引替ニ爲スヘキヲ(第七百七十條)

(第四十一號) 振出人ハ受取ヲ記入シタル約束手形ノ返還ヲ受ケサ

レハ支拂ヲ拒ムトテ得ルモノナリ故ニ全部ノ支拂ヲ受クル時ハ第一ノ如ク約束手形面ニ全部ノ受取ヲ記入シ之ト約束手形金ト引替ニ爲シ若シ一分ノ支拂ヲ受クルルハ約束手形ハ之ヲ返還スヘカラサルニ依リ第二ノ如ク約束手形面ニ一分ノ受取ヲ記入シ別ニ作りタル受取證ト一分ノ金額ト引替ニ爲スヘシ若シ榮譽支拂ヲ受クルルハ振出人ヨリ支拂ヲ拒マレタル后ナルヲ以テ第三ノ如ク拒證書面ニ榮譽支拂人ヨリ約束手形金及ヒ拒證書作成ノ費用ヲモ支拂受タル旨ヲ記入シ其拒證書及ヒ約束手形ト榮譽支拂金ト引替ニ爲スヘキモノトス是レ榮譽支拂人ノ振出人ニ對シテ償還請求ヲ爲スニ必要ナルヲ以テナリ
茲ニ一言スヘキハ所持人ハ手形面ニ記載シタル金ニテ支拂受クル

權利ヲ有スルニ依リ、金貨又ハ銀貨ニテ支拂フヘキ旨ヲ記載シタルモノナルハ、金貨又ハ銀貨ニテ支拂受クルヲ得ルモノトス、第七百五十四條參看スヘシ、手形金ノ受取證ハ第四號書式ニ依ルヘシ

第十一章 約束手形ノ支拂ヲ拒マレタル時ニ爲

スヘキ手續

第一 滿期日ニ支拂ヲ拒マレタルハ左ノ手續ヲ爲スヘキ

(一) 執達吏又ハ公証人ヲ頼ミ、支拂ヲ拒マレタル次ノ營業日ニ拒證書ヲ作成スヘキ(第七百六十七條第七百七十七條)

(二) 拒證書ヲ作成シタル時ハ前裏書人ニ拒證書ヲ作成シタルト及ヒ償還請求スヘキ旨ヲ書面ニ作り通知スヘキ

(第四十二號) 約束手形ノ支拂期日ニ支拂ヲ拒マレタルハ、(振出人ノ所ルカ又ハ振出人ノ財産等ノ場合ニ支拂受クル能ハザルハモ) 拒マレタルモノトナルベシハ、第一ノ如ク執達吏又ハ公証人ヲ頼

ミ、其拒マレタル日ノ次ノ營業日即チ大祭日ヤ日曜日ノ如キ一般ノ休業日ニ非サルハ、其拒マレタル翌日若シ拒マレタル翌日カ一般ノ休業日ナルハ、其休業日ノ次ノ營業日ニ拒證書ヲ作成シ、其翌日第二ノ如ク前裏書人ニ拒證書ヲ作成シタルト及ヒ償還請求スヘキ旨ヲ書面ニ依リ通知スヘキモノトス、此通知ノ方法ハ通知書ヲ作り其送達方ヲ執達吏ニ囑托スルヲ便利トス然レモ執達吏ニ差支アリテ自己又ハ雇人ヲ以テ通知ヲ爲スルハ通知書ヲ渡シ其受取書ヲ取置クヘシ是レ他日通知ノ有無ニ付爭ヲ生スルトモアラハ通知ヲ爲シタルトノ證據トナルヘキモノナルヲ以テナリ

茲ニ注意ヲ要スヘキハ前裏書人數名アリテ其數名ニ償還請求ヲ爲サントスルニハ其數名ニ對シ拒證書作成ノ通知ト償還請求ノ通知トヲ爲サルヘカラス若シ通知ヲ爲サル者アルハ其通知ヲ受

ケサリシ者ニ對シテハ償還請求權ヲ失フヘキモノトス
又振出人ニ對シテハ拒證書ノ作成及ヒ償還請求ノ通知ヲ要セサル
モ他所拂入ヲ掲ケタル約束手形ノ支拂ヲ拒マレタル場合ニハ振出
人ニ對シテモ裏書人ニ對スルト同様拒證書ヲ作成スヘキハ勿論其
作成ノ通知及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲サルヘカラス否ラサレハ振
出人ニ對スル償還請求權ヲ失フヘシ

終リニ一言スヘキハ拒證書ノ作成ハ必ス執達吏又ハ公証人ニ囑托
スヘキト是ナリ舊爲替手形約束手形條例ニハ約束手形ニ付テハ振
出人チシテ拒證書ヲ作成セシムル規定ナリシカ故ニ今日予ノ手形
上ノ訴ヲ聽クヤ舊條例ノ規定ニ依リ振出人ニ拒證書ヲ作成セシメ
タル爲メニ敗訴シタル者又或ハ拒證書ヲ作成シタル通知及ヒ償還
請求ノ通知ヲ爲サリシ爲メ敗訴シタル者アリ故ニ之等ノトハ最

モ注意ヲ要スヘキモノトス

執達吏又ハ公証人ノ作ル拒證書ハ第八號書式ニ所持人自ラ作ル
ノ拒證書ハ第九號書式ニ又拒證書作成ト償還請求ノ通知書ハ第十
三號書式ニ依ルヘシ

第二 一分ノ支拂チ受ケタル片モ其殘額ニ付テハ前同様拒證書ヲ作
成シ其作成ノト及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲シ得ヘキト(第七百六十七
條)

(第四十三號) 一分ノ支拂チ受ケタル片ハ其殘額ハ支拂チ拒マレタ
ルモノナルチ以テ前裏書人ニ對シテ償還請求ヲ爲サントスルニハ
前號ノ手續キト同様拒證書ヲ作成シ其作成ノト及ヒ償還請求ノ通
知ヲ爲サルヘカラスルモノナリトス若シ之ヲ怠タル片ハ償還請
求權ヲ失フヘシ

第三 拒証書作成ノ義務ヲ免除セラレタル約束手形ノ満期日ニ支拂
ヲ拒マレタル片ハ左ノ手續キヲ爲スヘキト(第七百八十三條)

(一) 約束手形ノ謄本(手形ノ寫ヲ云フ)ヲ作り之ヲ前裏書人ニ送達スヘキト(第
七百八十三條)

(二) 右謄本ノ送達ト同時ニ償還請求ノ通知ヲ爲スヘキト(第七百八
十三條)

(第四十四號) 拒証書作成ノ免除ヲ受ケタル約束手形ノ所持人ハ満
期日ニ支拂ヲ拒マル、モ拒証書ノ作成ヲ要セサルハ當然ナルモ第
一ノ如ク約束手形ノ謄本即寫ヲ作り之ヲ償還セシメント欲スル前
裏書人ニ送達ヲ爲シ之レト同時ニ償還請求ノ通知ハ爲サルヘカ
ラサルモノトス之ヲ怠タル片ハ償還請求權ヲ失フヘシ又右送達ト
通知ヲ爲ストハ前號ニ説明スル如ク執達吏ニ囑託スルヲ便利トス

若シ雇人ヲ以テ送達及ヒ通知ヲ爲ス片ハ其送達書ト通知書トノ受
取ヲ取ラシムヘシ償還請求ノ通知書ハ第十三號書式ニ依ルヘシ茲
ニ注意ヲ要スルハ數名ノ裏書人アリテ後ノ裏書人カ拒証書ノ作成
ヲ免除シタルモノナル片ハ其免除シタル者ノ前ノ裏書人ニ對シテ
ハ拒証書ノ作成及ヒ其作成ノ通知ハ爲サルヘカラサルモノトス
何トナレハ免除シタル者ノ前裏書人ハ拒証書ノ作成ヲ免除シタル
モノニ非サレハナリ

又所持人ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタル裏書人モ其通知書ヲ受取
リタル翌日中ニ自己ノ前裏書人ニ對シ自己ノ通知ヲ受ケタル通り
償還請求ヲ爲スヘキ旨ノ通知ヲ爲ストヲ得ルモノトス

第十二章 拒証書作成ノ方式

第一 拒証書ノ作成ハ執達吏又ハ公証人ニ委託スベキト(第七百九十

條

四十二

(第四十五號) 拒証書ハ償還請求ヲ爲スニ當リ振出人ノ支拂ヲ爲サ
、リシコトヲ證スルモノナレハ最モ確實ナル公正證書ニ爲スヘキモ
ノトス故ニ是レヲ作成スルニハ必ス執達吏又ハ公證人ニ委託セサ
ベカラズ尤モ執達吏又ハ公證人ノ在ラサル地ニ於テハ此ニ掲クル
如ク所持人自カラ作成スルヲ得ルモノトス

第二 執達吏又ハ公證人ノ在ラサル地ニ於テハ成年ノ證人二名ノ立
會ニテ所持人自カラ拒証書ヲ作成スベキコト(第七百九十條)
(第四十六號) 拒証書公正證書ニナスベキモノナルモ法律ハ例外ヲ
設ケ執達吏又ハ公證人ノ在ラサル地ニ於テハ所持人ニ自カラ作成
スルコトヲ得セシメタルモノナリ而シテ所持人ノ作成スルニハ執達
吏又ハ公證人ノ作成スベキ場合ト全一ノ方式ニ依ラサルベカラサ

ルノミナラズ猶ホ成年ノ證人二名ノ立會ヲ要スルモノトス若シ此
立會人ナクシテ作成スルモ無効トナル可シ、

第三 拒証書ハ左ノ營業日ニ作成スベキコト(第七百九十四條)

- (一) 支拂ヲ拒マレタル日ハ支拂期日ノ次ノ營業日
- (二) 一覽後定期拂ノ約束手形ノ呈示ニ付支拂期日ヲ看認メサル日
ハ其呈示ヲナシタル次ノ營業日
- (三) 一分ノ支拂ヲナシタル日ハ其支拂ヲナシタル次ノ營業日
- (四) 他所拂入ヲ掲ケタル約束手形ノ支拂人カ引受テ拒ミタル日ハ
其拒ミタル次ノ營業日
- (五) 一覽拂ノ約束手形ノ支拂ヲ拒ミタル日ハ其手形ヲ呈示シタル
次ノ營業日
- (六) 振出人又ハ他所拂入ノ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル

四十三

カ身元ノ不確ナル場合ニ擔保ヲ求メテ是レニ應セサルハ其
次ノ營業日

(第四十七號) 茲ニハ別ニ説明ヲ要セサルモ拒證書ハ營業日ニ作成
スベキモノナルガ故ニ大祭日ヤ日曜日ノ如キ一般ノ休業日ニ作成
スルモ無効ナリトス此ノ營業日ノ下ハ第四十二號ニ説明スル所ナ
リ故ニ復タ贅セズ

第四 拒證書ハ左ノ場合ニ於テ作成スベキ(第七百九十一條第七百
九十二條)

- (一) 振出人ノ拒證書ヲ作成スルハ振出人ノ營業所他所拂人ノ拒
證書ヲ作成スルハ他所拂人ノ營業所
- (二) 振出人ノ營業所ナキハ其住居内又ハ其傍ヲ他所拂人ノ營業
所ナキハ其住居内又ハ其傍ヲ

(三) 止ムヲ得サル場合ニハ裁判所又ハ公證人ノ役場

(四) 營業所及ヒ住所ノ知レサルハ拒書ノ所在ヲ問合タル其所轄
ノ官署

(第四十八號) 商人ノ支拂ハ營業所ニ於テ爲スベキモノナルガ故ニ
第一ノ如ク營業所ニ於テ作成スベキモノトス若シ營業所ヲ有セサ
ルハ第二ノ如ク其住居内カ又ハ拒マレテ住居ニ入ル能ハサルハ
ハ其住居ノ傍ヲニ於テ作成スヘキモノトス風雨火水難等ノ爲メニ
住居ノ傍ニ於テ作成スル能ハサルハ第三ノ如ク裁判所又ハ公證
人ノ役場ニ於テ作成スベキモノトス被拒者ノ住居ノ知レサルハ
先ツ拒者ノ住居ヲ管轄スル警察署ニ拒者ノ所在ノ問合セテ爲シタ
ル上其警察署ニ於テ作成スベキモノトス尤モ止ムヲ得サルハ市
區郡役所町村役場ニ問合ヲ爲シタル上其役場又ハ役所ニ於テ作成

スルモ妨ケナシトス

第四 拒證書ニハ左ノ事項ヲ記載スベキト(第七百九十五條)

- (一) 約束手形ノ全文但シ最後ノ裏書人ニ至ルマテ遺漏ナク記載スベキト
- (二) 拒者ノ臨席又ハ不在
- (三) 擔保ノ要求及ヒ拒絶并ニ拒絶ノ理由
- (四) 右要求及ヒ拒絶ノ日并ニ場所
- (五) 營業支拂アルルハ其旨
- (六) 年月日場所及ヒ臨席惣員ノ署名捺印
- (七) 拒者ノ承諾ニ依リ法律ニ定メタル場所外ニ於テ作成スルルハ拒者ノ承諾
- (八) 拒者ガ署名捺印スルヲ欲セス又ハ署名捺印スルヲ能ハサルル

ハ其旨

(第四十九號) 茲ニ掲ケル第一乃至第八ノ事項ハ必ス之レヲ掲ケサルベカラス若シ掲ケサルモノアルルハ拒證書ノ無効トナルトアルベシ拒證書ハ第八號ノ書式ニ依ル可シ

第十三章

約束手形ノ償還請求ヲナス方法并ニ償還受クル手續

第一 所持人ニ於テ償還義務者タル前裏書人ニ拒證書作成ノト及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲シタルルハ其通知ヲ受ケタル前裏書人ニ償還請求ヲ爲スベキト(第七百六十七條第七百七十六條第七百八十一條第七百八十三條)

(第五十號) 約束手形ノ裏書人ハ振出人ノ支拂ヲ爲サ、ルルハ約束手形而ノ金額償還ノ義務ヲ負フタルモノナルガ故ニ拒證書ヲ作成

スルヲ及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲シタルハ其通知ヲ受ケサル裏書人ニ償還請求ヲナスベキモノトス

茲ニ一言スベキハ拒證書作成ノト償還請求ノ通知ヲ受ケタル裏書人モ其通知ヲ受ケタル翌日中ニ自己ノ前裏書人ニ償還請求ノ通知ヲ爲シタルハ償還請求ヲ爲シ得ルモノトス

第二 一分ノ支拂ヲ受ケタル殘額ノ場合モ前全様ノ手續ニ依リ償還請求ヲ爲スベキト

(第五十一號) 一分ノ支拂ヲ受ケタル殘額ニ付テモ前號ノ如ク拒證書ノ作成ノト及ヒ償還請求ヲ爲スヘキ旨ノ通知ヲナシタル前裏書人ニ對シ償還請求ヲナスヘキモノトス

第三 他所拂ニ非サル約束手形ノ振出人ニ償還請求ヲナスニハ拒證書ノ作成ト償還請求ノ通知ヲ要セサルト(第八百十四條)

(第五十二號) 他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ニ非サルハ振出人ニ對シテハ拒證書ノ作成及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲スノ要ナシ何トナレハ振出人ハ支拂人ヲ兼ルモノナルガ故ニ自己ノ支拂ヲナサ、リシトハ之レヲ知り居レハナリ

第四 振出人カ破産ノ宣告又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルハ滿期日前ト雖モ拒證書ノ作成ト償還請求ノ通知ノ手續トニ依リ償還請求ヲナスベキト(第七百七十九條)

(第五十三號) 破産者及ヒ家資分散者(舊身代限ヲナスモノ)ハ當然期限ノ利益ヲ失フモノナリ故ニ振出人ガ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルハ約束手形ノ支拂期日前ト雖モ拒證書ヲ作成シ前裏書人ニ對シ拒證書ノ作成ノト及ヒ償還請求ノ通知ノ手續ニ依リ償還請求ヲナスベキモノトス

茲ニ注意スベキハ他所拂入ヲ掲ケタル約束手形ノ支拂人カ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルモ本號ノ手續ニ依リ償還請求ヲナスヘキハ當然ナルモ此場合ニハ振出人ニ對シテモ拒證書ノ作成ト償還請求ノ通知ハ之レヲサハルヘカテザルモノトス若シ之レヲ怠ルルハ振出人ニ對スル償還請求權ヲ失フモノトス

第六 振出人ノ資力ノ確カナラサル爲メニ振出人ニ擔保ノ求メヲ爲シタルモ擔保ヲ供セサルモハ滿期日前ト雖モ拒證書ノ作成ト償還請求ノ通知ノ手續ニ依リ償還請求ヲナスベキヲ(第七百七十九條)(第五十四號) 資力ノ確カナラサルトハ殆ント無資力ナルモ例ヘハ振出人カ他所ノ債權者ヨリ差押ヲ受ケ更ニ財産ノナカリシ等ノ場合ヲ云フ斯ノ如ク資力ノ不確ナルモハ支拂期日ニ支拂ヲ受クルトノ出來ルヤ否ヤ謀ルベカラサルニ依リ振出人ヘ擔保即チ引當力又

ハ保證人ヲ求メ之レヲ供セサルモハ支拂ノ拒證書ヲ作成シ前裏書人ニ拒證書作成ノ了及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲シテ償還請求ヲ爲シ得ベキモノトス他所拂入ヲ掲ケタル約束手形ノ支拂人ノ資力ノ不確ナルモ全一ノ手續ニ依リ償還請求ヲナシ得ルモノナリ尤モ此場合ニハ振出人ニ對シテモ拒證書作成ノ了及ヒ償還請求ノ通知ヲナスベキハ勿論ナリ

第七 償還請求ヲナスニハ左ノ金額ニ限ル

- (一) 約束手形面ノ金額
 - (二) 滿期日ヨリ年百分十ノ利息
 - (三) 拒證書ノ作成及ヒ償還請求ノ通知ヲナスニ付テノ費用
- (第五十五號) 償還請求ノ金額ハ法律ニ於テ三ケノ金額ニ限リタルモノナルカ故ニ仮令實際支拂ヲ受ケサリシ爲メニ損害ヲ被ルコトアル

モ其損害高ノ要求ヲ許サ、ルモノトス尤モ戻爲替ヲ振出シタル片
ハ其戻爲替振出ニ付テノ費用ハ償還受クルヲ得ベシ

第八 償還ヲ受クルニハ左ノ手續ニ依ルベキヲ(七百八十八條第七百
八十九條)

(一) 約束手形面ニ償還受ケタルヲ記入シ是レト償還金ト引替ニ
ナスベキヲ

(二) 支拂拒證書ヲ交付スベキヲ

(三) 受取證ヲ記入シタル償還計算書ヲ交付スヘキヲ

(第五十六號) 償還ヲ受クルニ當リ茲ニ掲ケル手續ヲ要スルハ償還
ヲ爲シタルモノ、前者ニ對シテ償還請求ヲナス片ノ證據トナルヘ
キガ爲メナリ償還計算書ハ第十五號書前ニ從フベシ

茲ニ注意ヲ要スルハ償還請求ニ付テモ手形面記載ノ金圓ニテ受取

ルヲ得ヘキモノトス(第七百五十四條并ニ第四十一號)參看スヘシ

第十四章 違式ノ約束手形ノ無効タルヲ

第一 要件ヲ記載セサル約束手形ハ無効タルヲ(第七百六條)

(第五十七號) 約束手形ニ記載スベキ要件トハ第十四號ニ掲ケル振
出ノ年月日場所等ノ事項ヲ云フ此等ノ要件ノ一ツヲ掲ケサル約束
手形ハ無効ナルヲ以テ所持人ハ約束手形上ノ權利ナキモノトス然
レモ其約束手形ハ通常償權ノ證據トナルモノナルガ故ニ所持人ハ
振出人又ハ前裏書人ニ對シテ通常ノ償權トシテ其約束手形面ノ金
額辨償ノ請求ヲナスベキモノトス約束手形上ニ掲ケヘキ要件ノ一
第十五號參看スベシ

第二 要件ハ掲ケタルモ違法ノヲ掲ケタル約束手形ハ無効タルヲ

(第七百六條)

(第五十八號) 違法ノトチ掲ケタル約束手形トハ通常ノ要件ハ掲ケタルモ猶ホ但書ヲ附シ商品又ハ公債證書ヲ以テ支拂スベシトカ又ハ支拂期日ニ某銀行ヨリ金圓ヲ受取リタル并ハ支拂フベシト掲ケタルノ類ヲ云フ斯ノ如ク要件外ニ違式ノトチ掲ケタル約束手形ハ無効ナルヲ以テ所持人ハ手形上ノ權利ヲ行フトチ得ス故ニ前號ニ説明スル如ク振出人又ハ前裏書人ニ對シ通常ノ債權トシテ約束手形而ノ金額辨償ノ請求ヲナスベキモノトス

第三 手形面ニ記載シタル二箇ノ文言ノ趣旨ノ抵觸スルヲ法律ノ許セル方法ヲ以テ取除クトチ得サル約束手形ニ無効タルト(第七百六條)

(第五十九號)二箇ノ文言ノ趣旨ノ抵觸スルヲ法律ノ許セル方法ヲ以テ取除クトチ得サル約束手形トハ例ヘハ振出ノ年月日ヨリモ支拂

期日ノ方チ前ノ日付ニ記載シタル等ノ類ヲ云フ斯ノ如キ文言ノ趣旨ノ抵觸ハ法律ノ許セル方法ヲ以テ取除クトチ得サルモノナルニ依リ其約束手形ハ無効ナリ故ニ是亦所持人ハ振出人又ハ前裏書人ニ對シ通常ノ債權トシテ其約束手形面ノ金額辨償ノ請求ヲナスベシ

第四 裏書ニ間斷アル約束手形ハ所持人ノ爲メニ無効タルト(第七百三十二條)

(第六十號) 約束手形ハ裏書ニ間斷ナキトチ要スルモノトス仮令ハ振出人甲アリ乙ニ讓渡シ乙ヨリ丙ニ丙ヨリ丁ニ裏書讓渡チナシ丁カ所持スル時ハ其約束手形ハ甲ヨリ乙丙ヲ經テ丁ニ至ルマテ裏書ニ間斷ナキモ振出人甲ヨリ乙ニ讓渡シ乙ヨリ丙ニ讓渡シタル約束手形ヲ丙ノ裏書ナクシテ丁カ所持スル場合ノ如キハ則チ裏書人ノ

順序ニ間斷アルモノナリ斯ノ如キ裏書ニ間斷アル約束手形ノ所持人ナル丁ハ其前所持人タリシ丙ノ讓渡シタル裏書ナキニ依リ丙ノ所持スルモノヲ答取シタルモノナルヤ又ハ拾得シタルモノナルヤ知レサルヲ以テ法律ハ裏書ニ間斷アル約束手形ヲ其所持人ノ爲メニ之レヲ無効トナシタルモノナリ故ニ誤テ裏書ヲナサシメスシテ讓渡ヲ受ケタル所持人ハ其讓渡人ニ裏書讓渡ノ記入ヲ求メ手形上ノ權利ヲ保全スベシ又既ニ裏書ニ間斷アル約束手形ヲ讓受ケタル人ハ所持人ハ其前讓渡人ニ對シ通常ノ債權トシテ其約束手形面ノ金額辨償ノ請求ヲ爲スベシ

第五 無能力者ノ署名アル約束手形ハ其無能力者ニ對シテノミ無効タルヲ(第七百一條)

(第六十一號) 無能力者ノ署名シタル約束手形ハ其無能力者ニ對シテ無効ナルヲハ當然ナリ然レトモ其他ノ署名者タル能力者ノ爲メニハ有効ナリ故ニ無効力者ノ署名シタル約束手形ノ所持人ハ無能力者ニ對シテハ支拂請求又ハ償還請求ヲ爲スヲ得サルモ他ノ能力者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ行フヲ得ベシ第六十八號參看スベシ

第六 外觀ノ爲メノミ要件ヲ記載シタル約束手形ハ其情ヲ知リタル者ノ爲メニハ無効タルヲ(第七百二條)

(第六十二號) 外觀ノ爲メノミ要件ヲ記載シタルトハ外觀ハ手形ノ要件ヲ記載シ恰モ完全ナル約束手形ノ如クセルモ其實虛無ノ人ヲ振出人ニ掲ケタル等ノ類ヲ云フ斯ノ如キ約束手形タル情ヲ知リテ授受シタル者ノ爲メニ無効タルハ固ヨリ當然ナリ故ニ情ヲ知リタル所持人ハ約束手形上ノ權利ヲ行フヲ得サルモ情ヲ知ラサル所持

人ノ爲メニハ有効ナルニ依リ之ヲ行使スルヲ得ベシ第六十九號參看スベシ

第七 裏書禁止ニ背キテ裏書讓渡ヲ爲シタル約束手形ハ其禁止ヲ爲シタル者ニ對シテノミ裏書讓渡ノ無効タルヲ(第七百三十四條)

(第六十三號) 裏書讓渡ヲ禁止スルハ第十一號第二十一號ニ説明スル如ク振出人ノ知ラサル者ニ支拂義務ヲ負フ又ハ裏書人ノ知ラサル者ニ償還義務者タルヲ避クルカ爲メニシタルモノナルカ故ニ其禁止ヲ爲シタル者ノ爲メニ裏書ノ無効タルハ當然ナリ然レモ禁止ヲ爲サル者ノ爲メニハ其裏書讓渡ハ有効ナリ第五十八號參看スベシ

第八 偽造變造ノ約束手形ハ其情ヲ知リテ授受シタル者ノ爲メニハ無効タルヲ

(第六十四號)偽造トハ第五十九號ニ説明スル如ク虛無ノヲ記入シタルモノ變造トハ眞實ヲ變シタルモノナレハ共ニ其情ヲ知リテ授受シタル者ノ爲メニ無効タルハ當然ナリ然レモ是亦其情ヲ知ラサル者ノ爲メニハ有効ナリトス第五十九號參看スベシ

第十五章 違式ノ約束手形ノ有効ナルヲ

第一 手形面ニ記載シタルニケノ文言ノ趣旨ノ抵觸スルヲ法律ノ許セル方法ヲ以テ取除クヲ得ル約束手形ハ有効ナルヲ(第七百六條)
(第六十五號)手形面ニ記載シタル二個ノ文言ノ趣旨ノ抵觸スルヲ法律ノ許セル方法ヲ以テ取除クヲ得ルトハ例ヘハ手形面ニハ千圓ト記載シ其欄外ニハ五百圓ト記載シタル等ノ類ヲ云フ斯ノ如キ抵觸ノ場合ハ欄外ナル記載ノ五百圓ヲ手形面ニ記載シタル千圓ニ改メシムルモ妨ナキヲ以テ有効ナリ尤モ此ノ二個ノ抵觸ヲ取除クヲ

ヲ得ルト否トハ裁判官ノ法律解釋ト判斷トニ依ルモノナレハ其取
除キ得ル場合ノトハ豫メ定メ難シ然レトモ裁判官ニ在テモナルヘ
ク取除キテ有効トナシムヘシ而シテ抵觸ヲ取除カレタルハ約
束手形ハ有効ナルカ故ニ所持人ハ通常約束手形上ノ權利ヲ行使ス
ルヲ得ヘシ

第二 要件外ニ重要ナラサルヲ記載シタル約束手形ハ有効ナルト
(第七百七條)

(第六十六號要件外ニ重要ナラサルヲ記載シタルトハ例ヘハ利息
ヲ必ス支拂フヘシトカ又ハ抵當品ヲ差入置ノト云フヲ記載シタ
ルノ類ヲ云フ此等ノ記載ハ固ヨリ爲スベキニアラサルモ之レカ爲
メ害ヲ生スルモノニ非サルヲ以テ約束手形ノ効力ノ妨ケトナラサ
ルモノナリ故ニ斯ノ如キ約束手形ノ所持人ハ通常手形上ノ權利ヲ

行使スルヲ得ルモノトス

第三 無能力者ノ署名シテ振出シタル約束手形ハ其他ノ能力者ノ間
ニ在リテハ有効ナルト(第七百一條)

(第六十七號) 無能力者ノ署名ニテ振出シタル約束手形ハ其無能力
者ニ對シテノミ無効ニシテ其他ノ能力者ノ間ニ在リテハ有効ナル
ヲ以テ所持人ハ裏書讓渡ヲナシ又ハ前裏書人アルハ償還請求ヲ
ナスヲ得ヘシ若シ前裏書人ナキハ不當ノ利得取戻トシテ其振
出人タル無能力者ヲ代表スル後見人等ニ對シテ手形面ノ金額ヲ請
求スヘシ

第四 無能力者ノ署名ニテ裏書讓渡ヲ爲シタル約束手形ハ他ノ能力
者ノ間ニ在テハ有効ナルト(第七百一條)

(第六十八號) 無能力者ノ署名ニテ裏書讓渡ヲ爲シタル約束手形モ

他ノ能力者間ニ在テハ有効ナリ故ニ所持人ハ裏書讓渡ヲナシ又ハ支拂ヲ求ムルヲ得ベシ然レモ若シ支拂ヲ拒マル、コアルモ無能力者ニ對シテハ償還請求ヲ爲スヲ得ス尤モ其他ノ裏書人ニ對シテ償還請求ヲ爲シ得ヘキハ勿論ナリ

第五 外觀ノ爲メ要件ヲ記載シル約束手形其事實ヲ知ラズシテ授受シタル者ノ間ニ在テハ有効タルコト(第七百二條)

(第六十九號) 外觀ノミ要件ヲ記載シタル約束手形トハ第五十號ニ説明スル如ク虚偽ノ人ヲ振出人ニ掲ケザルモノナルモ其外觀ノ爲メニ作リタル約束手形タル情ヲ知ラスシテ授受シタル者ノ間ニ在テハ有効ナルヲ以テ情ヲ知ラサル所持人ハ通常手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ベシ然レモ振出人カ虚偽ノ人ナルハ支拂請求ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ナリ

第六 裏書讓渡ノ禁止ニ背キテ裏書讓渡ヲナシタル約束手形ハ裏書禁止ヲナサ、ル者ノ間ニ在テハ有効タルコト(第七百三十三條)

(第七十號) 裏書讓渡ノ禁止ニ背キテ裏書讓渡ヲ爲シタル約束手形ハ其禁止ヲナサ、ル者ノ間ニ在テハ有効ナルニ依リ所持人ハ裏書讓渡ヲナシ得ルハ勿論振出人ノ禁止ヲ爲シタルモノニ非ラサルハ支拂受クルコトヲ得ベシ又禁止ヲ爲サ、ル裏書人ニ對シテハ償還請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第七 偽造變造ノ手形ハ其情ヲ知ラサル者ノ間ニ在リテハ有効タルコト(第七百八條)

(第七十一號) 偽造トハ他人ノ名前ヲ振出人トナシタルガ如キ詐僞ノ手段ヲ以テ作成シタルモノヲ云フ變造トハ初メ適正ニ作成ノ振出シタル手形面ノ金額ヲ描改シテ増減スルコト即チ千五百圓トアル

ヲ二千圓トナシ又ハ千圓ト變改スル等ノ場合ヲ云フ斯ノ如キ偽造變造ノ約束手形ト雖モ其情ヲ知ラスシテ受領シタル者ハ爲メニハ有効ナルガ故ニ情ヲ知ラサル所持人ハ通常手形上ノ權利ヲ行使スルヲ得ベシ其支拂人タルト及ヒ償還受ケル方法ハ次ノ第十六章ニ之レヲ掲ケリ第七十二號乃至第七十六號參看スベシ

第十六章

偽造變造ノ約束手形金ノ支拂請求及

ヒ償還請求ヲ爲ス方法

第一 偽造ノ情ヲ知ラメシテ偽造者ヨリ讓受ケタル約束手形ノ所持人ハ其偽造者ニ對シテ詐取セラレタル約束手形金ヲ損害賠償トシテ要求スベキト(第七百八條)

(第七十二號) 約束手形ハ偽造ノ爲メニ義務ヲ生スルモノニ非サレハ約束手形ヲ讓受ケタル後偽造タルトヲ發見シタル場合ハ其約束

手形而ニ掲ケラレタル振出人ニ支拂ヲ請求スルヲ得ス故ニ此ノ場合ハ其偽造者ニ對シテ詐出セラレタル金額ノ賠償ヲ要求スベキモハトス尤モ其偽造者タルトハ明確ナルトハ告訴ヲナシ之レニ私訴ハ申立ヲ爲スヲ便利トス

第二 偽造ノ約束手形ヲ裏書ニ依リ讓受ケタル所持人ハ前裏書人ニ對シ償還請求ヲ爲スベキト(第七百八條)

(第七十三號) 偽造ノ手形ト雖モ既ニ裏書讓渡ヲ爲シタル者ハ所持人ニ對シ償還義務アルニ依リ所持人ハ前裏書人ニ對シ約束手形金ノ償還請求ヲ爲スベシ

第三 變造ノ情ヲ知ラスシテ裏書讓渡ヲ受ケタル約束手形ノ所持人ハ振出人ニ對シテ變造前ノ手形金額ヲ支拂受ケベキト
(第七十四號) 約束手形ハ變造ノ爲メニ義務ヲ生スルモノニ非ラサ

ルモ之レガ爲メ既ニ生シタル義務ヲ免カル、ル得ス故ニ變造ノ情ヲ知ラサル所持人ハ先ツ振出人ニ對シ變造前ノ金額ニ付支拂ヲ請求スベシ然ラサレハ償還請求ヲナストテ得サルモノトス

第四 變造手形ノ支拂ヲ拒マレタル片ハ變造後ノ裏書讓渡人ニ對シ變造金額ノ償還請求ヲ爲スベシ(第七百八條)

(第七十五號) 振出人及ヒ變造前ノ裏書讓渡人ニ對シテハ變造ノ爲メニ増加シタル金額ヲ請求スル權利ナキモ變造後ノ裏書人ハ増加額ニ付テモ償還義務ヲ負フモノナルニ依リ所持人ハ變造後ノ裏書人ニ對シ變造額ノ償還請求ヲナスベシ

第五 變造後ノ裏書讓渡人ニ償還受クル見込ナキ片ハ變造前ノ裏書人ニ對シ變造前ノ額ニ付償還請求ヲ爲スベシ

(第七十六號) 變造前ノ裏書人ハ變造前ノ額ニ付テノミ償還義務ヲ

負フタルモノナルニ依リ若シ變造後ノ裏書人ヨリ償還受クル見込ミナキ片ハ變造前ノ裏書人ニ對シ變造前ノ額ニ付キ償還請求ヲナスベシ

茲ニ注意ヲ要スルハ手形上ノ義務ハ署名者各自連帶ノ責ヲ負フタルモノナルガ故ニ若シ償還請求ニ付訴ヲ爲ス場合ニハ振出人及ヒ變造前後ノ裏書人一同ヲ連帶ニシテ訴フルヲ便利トス其方法ハ左ノ如シ

變造前ノ金額ニ付テハ振出人及ヒ變造前後ノ裏書人一同ヲ連帶トシ變造後ノ増加額ニ付テハ變造シタル裏書人及ヒ其後裏書人一同連帶トナスベキモノトスヲ

第十七章

約束手形ノ請求權及ヒ償還請求權ニ關スル時効

第一 約束手形ノ支拂請求權ハ滿期日ヨリ三ヶ年限リタルヲ(第七百十二條)

(第七十七號) 商事ハ尤モ迅速ヲ要スルモノナルカ故ニ手形上ノ時効(出訴期限ト)ノ期間ハ通常出事上ノ時効期間ヨリ之レヲ短カクシテ支拂期日ヨリ三ヶ年限リトナシタルモノナリ此期間内ニ支拂請求ヲ怠ルルハ支拂請求權ヲ失フベシ故ニ所持人ハ此第十八章ニ掲クル時効中斷ノ手續ヲ爲サ、ルベカラサルモノナリトス第八十三號及ヒ第八十四號參看スベシ

第二 單純ニ定メタル期日拂及ヒ日付後ニ定メタル期日拂約束手形ノ時効期間ハ其滿期日ヨリ起算スベキヲ(第七十八號) 茲ニハ別ニ説明ヲ要セス其單純ニ定メタル期日拂日付後ニ定メタル期日拂ノ下ハ第九號ニ説明セル所ナリ

第三 一覽拂ノ約束手形ノ時効期間ハ左ノ區別ニ依リ起算スベキヲ

(一) 呈示ヲ爲シタル日ハ其呈示ヲ爲シタル日ヨリ起算スベキヲ(第七百十三條第七百五十七條)

(二) 振出ノ日ヨリ二ヶ年以内ナル呈示期間ノ定メアリテ呈示ヲ爲サ、リシ日ハ其呈示期間ノ滿了シタル日ヨリ起算スベキヲ(第七百十三條第七百五十七條)

(三) 呈示期間ノ定メナクシテ呈示ヲ爲サ、リシ日ハ振出人ノ日付後二ヶ年ノ滿了シタル日ヨリ起算スベキヲ(第七百十三條第七百五十七條)

(第七十九號) 一覽拂ノ約束手形ハ其呈示期間ノ定メアルト否トナ問ハス振出ノ日ヨリ二ヶ年間ハ何時ニテモ呈示スルヲ得ルモノナリ而シテ一旦呈示ヲ爲シタル日ハ其日カ滿期日トナルモノナル

ナ以テ第一ノ如ク呈示ノ日ヨリ起算スベキモノトス若シ振出ノ月ヨリ幾十日間又ハ歲月間ヲ呈示期間トシテ定メタルモノナルニ呈示ヲ爲サ、リシハ第二ノ如ク其呈示期間ノ滿了シタル日ヨリ起算スベキモノトス例ヘハ明治二十八年一月一日ノ振出ニシテ明治二十八年三月十日マテテ呈示期間ト定メタルモノナルハ右三月十日ヨリ起算スベシ又呈示期間ノ定メナキ場合ニ呈示ヲ爲サ、リシハ第三ノ如ク振出ノ日ヨリ二ケ年ノ滿了シタル日ヨリ起算スベキモノトス例ヘハ明治二十八年一月十日ニ振出シタルモノナレハ全日ヨリ滿二ケ年ノ後即チ明治三十年一月九日ヨリ起算スベキモノトス

茲ニ最モ注意ヲ要スルハ第二ノ場合ニ於テ若シ振出ノ日ヨリ二ケ年以上ノ呈示期間ヲ定メタルモノナルハ第三ノ如ク振出ノ日付

後二ケ年ノ滿了シタル日ヨリ起算スベキモノナリトス是レ呈示期間ハ振出ノ日ヨリ二ケ年ヲ超過スベカラサルニ依リ其超過シアル部分ハ之レヲ無効トナスベキモノナリ故ニ此注意ヲ怠リタルハ支拂請求權ヲ失フベシ

第四 一覽後定期拂ノ約束手形ノ時効期間ハ左ノ區別ニ依リ起算ス

ベキト

- (一) 呈示ヲ爲シタル日ハ其呈示ヲ爲シタル日ヨリ起算スベキト(第七百十三條第七百五十七條)
- (二) 振出ノ日ヨリ二ケ年以内ナル呈示期間ノ定メアリテ呈示ヲ爲サ、リシハ其呈示期間滿了シタル日ヨリ起算スベキト(第七百十三條第七百五十七條)
- (三) 呈示期間ノ定メナクシテ呈示ヲ爲サ、リシハ振出ノ日付後

二ヶ年ノ滿了シタル日ヨリ起算スベキヲ(第七百十三條第七百五十七條)

(第八十號) 茲ニ掲クル時効ノ起算点ニ付テハ前號ニ説明スル理由ト全一ナルヲ以テ復タ贅セサルモ第二ノ場合ニ於テ呈示期間ヲ二ヶ年以上ニ定メタルモノナルトキハ前號末尾ニ説明スル如ク第三ノ起算方ニ從フヘキモノナルトハ之ヲ怠ルヘカラサルモノトス

第五 約束手形ノ償還請求權ハ償還請求ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ三ヶ年限リタルヲ(第七百十二條)

(第八十一號) 約束手形ノ償還請求權ニ於ケル時効ヲ三ヶ年限リトナシタルモ商事ノ迅速ヲ要スルカ爲メナリ若シ此期間内ニ償還請求ヲ怠ルルハ償還請求權ヲ失フヘシ故ニ所持人ハ此ノ第十六章ニ掲グル時効中斷ノ手續ヲ爲サルヘカラサルモノトス第八十三號

第八十四號參看スヘシ

茲ニ注意ヲ要スルハ一覽拂及ヒ一覽後定期拂并他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ニシテ其振出ノ日付後二ヶ年内ニ呈示ヲ爲サハリシハハ償還請求權ノ時効期間ニ係ラス償還請求權ヲ失フヘシ第七百三十五條第七百五十七條參看スヘシ

第六 償還請求權ノ時効期間ハ償還請求ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ起算スヘキヲ(第七百十二條)

(第八十二號) 約束手形ノ償還請求權ニ於ケル時効ノ起算点ハ單純ナル期日拂タルト一覽拂又ハ一覽後定期拂タルトヲ問ハス總テ第七百六十七條第七百七十五條第七百八十一條第七百八十三條等ノ規定ニ從ヒ償還請求ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ起算スヘキモノトス

第拾八章 約束手形ノ時効期間ヲ中斷スル方法

并ニ時効ヲ消滅セシムル方法

第一 時効ノ期間中支拂又ハ償還請求ノ訴ヲ提起スルコト(第七百十二條第二項)

(第八十三號) 時効ノ期間ヲ空過セシムルハ全ク手形上ノ支拂請求權及ヒ償還請求權ヲ失フモノナルニ依リ所持人ハ支拂請求權ヲ有スルハ其請求權ノ期間中支拂請求ノ訴ヲ爲シ償還請求權ヲ有スルハ其請求權ノ期間中償還請求ノ訴ヲ爲スベシ斯ノ如ク訴ヲ爲セハ其日マテ經過シタル時効ノ期間ハ中斷セラル、モノナルカ故ニ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ

第二 時効ノ期間中裁判上ノ手續ヲナスベキコト(第七百十二條第二項)(第八十四號) 時効ノ期間中ハ必ス訴ヲ爲サ、ルモ裁判上ノ手續ヲ爲セハ時効期間ヲ中斷スルノ効アルベシ而シテ其裁判上ノ手續ト

ハ種々ノ方法アルモ其重ナルモノヲ掲クレハ區裁判所ニ振出人又ハ裏書人ニ對スル支拂請求等ノ督促手續ノ申請ヲ爲ス、又ハ和解ノ申請ヲ爲ス、區裁判所又ハ地方裁判所へ申請シテ仮差押ヲナス、地方裁判所ニ破産決定ノ申請ヲナス等ノ類ナリ、之レ等ノ手續ヲ爲セハ時効ハ當然中斷セラル、モノナルニ依リ所持人ハ訴ヲ爲サ、ルハ此裁判上ノ手續ヲ爲サ、ルベカラサルモノトス

第三 時効ノ消滅スルコト

(一) 支拂請求又ハ償還請求ノ訴ヲ爲シ判決ヲ受ケタルハ(第七百十二條第二項)

(二) 手形上ノ義務アルコトヲ掲ケタル書面ニ依リ貸借上ノ新債務ニ改約シタルハ(第七百十二條第二項)

(第八十五號) 時効ノ消滅トハ再ヒ手形上ノ時効ノ生セサルコトニ確

定スルヲ云フ即チ第一ノ如ク支拂請求又ハ償還請求ノ訴ヲ爲シテ
 勝訴ノ判決ヲ受ケタルハ其權利ハ判決ニ依リ確定シタルモノナ
 レハ仮令其後執行ヲ怠ルモ再ヒ手形上ノ時効ヲ生スルヲナシ此場
 合ハ時効ノ其判決ノ時消滅スベシ又第二ノ如ク前キノ手形上ノ義
 務アルヲ看認メテ之レヲ新タナル借分トナストテ證書ニテ改約
 シタルハ出事上更改ト稱シ前キノ手形上ノ義務ハ後ノ貸借上ノ
 義務ニ改マリタルモノナレハ復タ手形上ノ時効ヲ生スルヲナシ此
 場合ハ時効ハ其改約ノ時消滅スルモノナリ尤モ新債務ハ更ニ民事
 上ノ時効ヲ適用セラルヘキモノナルヲ以テ之ヲ注意セサルベカラ
 ズ

第十九章 約束手形上ノ權利ヲ失フ

第一 時効ノ期間ヲ空過セシメタルハ支拂又ハ償還請求權ヲ失フ

一

(第八十六號) 時効ノ期間中支拂請求又ハ償還請求ノ訴等ニ依リ時
 効中斷ノ手續キヲ爲サ、ル爲メニ其請求權ヲ失フハ第十五章ニ
 説明スル所ナリ故ニ復タ贅セス第七十七號乃至第八十一號參看ス
 ベシ

第二 拒證書ヲ作成セサルハ償還請求權ヲ失フ

(第八十七號) 拒證書ヲ作成セサル爲ニ償還請求權ヲ失フハ第四
 十二號ニ説明セル所ナリ故ニ復タ贅セス全號參看スベシ

第三 拒證書ノ作成ト償還請求ノ通知ヲ爲サ、ルハ償還請求權ヲ
 失フ

(第八十八號) 拒證書作成ノ一及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲サ、ル爲メ
 ニ償還請求權ヲ失フ一モ第四十二號ニ説明スル所ナリ故ニ復タ贅

セス全號參看スベシ

七十八

第四 一覽拂ノ約束手形及ヒ一覽後定期拂ノ約束手形并ニ他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ヲ振出ノ日ヨリ二ヶ年内ニ呈示ヲ爲サ、ルハ支拂請求權及ヒ償還請求權ヲ失フ(第七百五十七條)

(第八十九號) 一覽拂及ヒ一覽後定期拂并ニ他所拂人ヲ掲ケサル約束手形ヲ振出ノ日ヨリ二ヶ年内ニ呈示ヲ爲サ、ル爲ニ支拂又ハ償還請求權ヲ失フ(モ第七十九號乃至第八十一號ニ説明スル所ナリ故ニ復タ贅セス全號參觀スベシ)

第二十章 約束手形ヲ盜取セラレ又ハ紛失セシ

メタル等ノ場合ニ要スベキ手續

第一 約束手形ヲ盜取セラレ又ハ紛失若クハ遺失セシメタルハ左ノ手續ヲ爲スベキ

(一) 支拂請求權ヲ有スルハ振出人ニ支拂差止メノ通知ヲ爲スベキ

(二) 償還請求權ヲ有スルハ前裏書人ニ差止メノ通知ヲ爲スベキ

(第九十號) 約束手形ヲ盜取セラレ又ハ紛失若クハ遺失セシメタルハ其約束手形ノ支拂請求權ヲ有スルハ第一ノ如ク振出人ニ對シ支拂差止メノ通知ヲ爲シ償還請求權ヲ有スルハ第二ノ如ク償還義務者タル前裏書人ニ償還差止メノ通知ヲ爲ス(ト)ヲ要ス(斯ノ如ク通知ヲ爲シタルハ其後答取者又ハ拾得者ニ支拂又ハ償還セラレ、モ之レガ爲メニ約束手形金ノ請求權ヲ妨ケラル、モノニ非ラサルナリ而シテ他日本章第二ノ公示催告申立テノ結果約束手形金ノ請求ヲ爲スベキモノトス左レハ此差止メノ通知ハ他日ノ證據ト

ナルモノナレハ最モ之レヲ確實ニ爲サ、ルヘカラス故ニ通知ヲ爲シタルルハ通知ヲ受ケタル者ヨリ通知ヲ受ケタル書面ヲ取置クベシ

茲ニ注意ヲ要スベキハ若シ通知ヲ怠リタル中支拂又ハ償還サル、ルハ爲メニ手數金ノ損害ヲ受ケサルベカラサルモノナリトス又他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ニシテ支拂請求權ヲ有スルルハ其他所拂人ニ差止メノ通知ヲ爲スベキモノトス支拂差止メノ通知書ハ第十六號書式ニ償還差止メノ通知書ハ第十七號書式ニ依ルベシ

第二 左ノ區別ニ依リ公示催告手續申立ヲ爲スベキ(民事訴訟法第七百七十七條)

(一) 支拂請求權ヲ有スルルハ振出人ノ住所ヲ管轄スル區裁判所ニ口頭又ハ書面ニ依リ申立ヲ爲スベキ(民事訴訟法第七百六十

五條第七百七十九條)

(二) 償還請求權ヲ有スルルハ前裏書人ノ住所ヲ管轄スル區裁判所ニ口頭又ハ書面ニ依リ申立ヲ爲スベキ(民事訴訟法第七百七十五條第七百七十九條)

(第九十一號) 手形ニ關スル公示催告ノ手續トハ民事訴訟法第七百七十七條ニ掲グル所ニシテ即チ手形ヲ盜取セラレ又ハ紛失若クハ遺失セシメタル所有者ノ手形上ノ權利ノ有無ヲ確ムル方法ナリ此ノ公示催告手續ノ申立ヲ爲スヤ裁判所ヨリ其紛失等ニ罹ル手形ノ現有者ニ對シ一定ノ期間内(少クトモ六ヶ月ノ時間ヲ要ス)即チ何月何日マテニ手形上ノ權利ヲ有スル旨ノ届出ヲ爲サ、ルモノハ手形上ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ裁判所ノ掲示板又ハ取引所アル所ハ其取引所ニ掲示シ尙ホ官報又ハ新聞紙上ニ三回ノ公告ヲ爲シ其期限内

ニ届出ヲ爲シタル者アルハ其者ト手形ヲ失ヒタル者トノ手形上ノ關係ヲ取調べ現有者ノ不正ニ手形ヲ占有スルモノナルハ除權判決ト稱シ現有者ノ占有セル約束手形ノ無功ナル旨ヲ宣言シ又期日ニ現有者ヨリ届出ヲ爲サ、ルハモ除權判決トシテ其紛失等ニ罹ル約束手形ノ無効ナル宣言ヲナスベシ斯ノ如ク宣言受ケタル後チ始メテ約束手形ヲ失ヒタル者ノ手形上ノ權利ヲ行フヲ得ルモノナリ故ニ約束手形ヲ失ヒタル者ハ除權判決ノ結果ニ依リ失ヒタル約束手形金ノ請求ヲ爲スベキモノトス

茲ニ一言スベキハ除權判決ハ一ツノ裁判ナルヲ以テ必ス約束手形ヲ失ヒタル者ノ勝訴タルトハ之レヲ期スベカテズ故ニ若シ敗訴シタルハ盜取者又ハ拾得者ノ知レタルハ是等ノ者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スノ外ナシ尤モ實際手形ヲ失ヒタル者ハ敗訴スルカ

如キトハナカルベシ口頭ヲ以テ爲サ、ルハ公示催告ノ申立書ハ

第十八號書式ニ依ルベシ

第三 公示催告ノ手續申立テ結果除權判決ニ依リ紛失等ニ罹ル約束手形ノ無効ナル宣言ヲ受ケタルハ本章第一ノ區別ニ從ヒ振出人又ハ前裏書人ニ對シ其紛失等ニ罹ル約束手形金ノ請求ヲ爲スベシ

(民事訴訟法第七百八十五條)

(第九十二號) 除權判決ノトハ前號ニ説明セルヲ以テ茲ニ贅セス

第廿一章 約束手形ノ所持人ノ注意ヲ要スル事項

第一爲替手形規定ニシテ約束手形ノ性質上抵觸セサルモノハ約束手形ニ適用スベキト(第八百十五條)

(第九十三號) 約束手形ト爲替手形トハ大概其性質ノ相均シキモノ

ナレハ其均シキ部分ニ對シテハ爲替手形ノ規定ヲ適用スルモノト爲シテ約束手形ニ關スル規定ヲ省略シタルモノナリ而シテ其如何ナル規定ハ性質上相抵觸スルヤチ明カニセントセハ各條項ニ就キテ之レヲ探究セサルベカラサルニ依リ簡單ヲ旨トスル本書ノ上ニ尽ストチ得ズ故ニ只其二者ノ性質ノ異ナル一斑ヲ示サンニ約束手形ハ振出人カ支拂人ヲ兼ヌルモノナルモ爲替手形ハ特ニ支拂人アリテ振出人ハ裏書人ト均シク償還義務者ニシテ支拂人ヲ兼ルモノニ非サル点ニアリ此ノ相異ナル点ヨリ推究セハ爲替手形ノ規定ニシテ約束手形ニ適用シ得ベキモノト否トハ自ラ之ヲ知ルヲ得ヘシ今其適用シ得ヘキモノト否トノ著明ナルモノヲ掲クレハ左ノ如シ

(一) 裏書讓渡ニ關スル規定

- (二) 保證ニ關スル規定
 - (三) 支拂期日ニ關スル規定
 - (四) 支拂及ヒ榮譽支拂ニ關スル規定
 - (五) 裏書人ノ爲メニスル拒證作成ノ方式ニ關スル規定
 - (六) 償還請求ニ關スル規定
 - (七) 數通連合ノ組手形ニ關スル規定
 - (八) 戻爲替ノリニ關スル規定
適用スベカラサル規定
 - (一) 引受ニ關スル規定
 - (二) 振出人ノ爲メニスル拒證書ノ作成ノ規定
 - (三) 手形資金ニ關スル規定
- 右三ヶノ規定中他所拂及ヒ一覽拂并ニ一覽後定期拂ノ約束手形ナ

ルハ引受ノ規定ハ之レヲ適用スルヲ得ベシ又他所拂入ヲ掲ケタル約束手形ナルハ振出人ノ爲メニスル拒證書作成ノ規定ハ之レヲ適用スルヲ得ベキモノトス

第二 支拂期日前ニハ約束手形金ノ支拂ヲ受クル義務ナキト(第七百五十九條)

(第九十四號) 約束手形ノ支拂期日ハ双方ノ利益ノ爲メニ定メタルモノナレハ期日前ニ支拂ヲ受ケサルベカラズトセハ所持人ハ其約束手形金ノ使用方ト保管ノ方法トニ迷惑スルトトナシトセズ故ニ所持人ハ期日前ノ支拂ハ之レヲ拒ムトヲ得ベシ尤モ敢テ支拂ヲ爲スハ其支拂ヲ受クルハ妨ナキモノトス

第三 時効ヲ生セシメ又ハ拒證書作成等ノ方式ヲ怠リタルハ償還請求權ヲ失フ

(第九十四號) 茲ニ掲クル失權ノトハ第十六章ニ詳説セリ今茲ニ掲クルハ重複ナルモ重要ノナルヲ以テ所持人ノ注意ノ爲メニシタルモノトス第八十三號及第八十四號參看スベシ

第四 違式ノ爲メニ約束手形ノ無効トナルト及ヒ無効トナラサル場合アル

(第九十六號) 茲ニ掲クル違式ハ約束手形ノトモ第十二章及第十三章ニ掲クル所ナルモ是亦重要ノナルヲ以テ所持人ノ注意ノ爲メニシタルモノトス第五十七號乃至第七十一號參看スベシ

第五 振出人ノ保證人ハ振出人ト連帶ノ義務アルト(第七百十五條第七百五十一條)

(第九十七號) 民事上ノ保證人ハ特約アルニ非サレバ連帶スルモノニ非サルモ約束手形ノ保證人ハ本人タル振出人ト連帶ノ義務アル

モノトス是レ手形ノ信用ヲ確カムルガ爲ナリトス又保證人ノトハ
第九章ニ詳説セリ第三十二號乃至第三十四號參看スベシ

第六 裏書人ノ保證人ハ其裏書人ノ連帶ノ義務アルト(第七百五十一
條)

(第九十八號) 前號説明ノ趣旨ト全一ナルヲ以テ復説セズ

第七 償還義務ニ付テハ各裏書人ト振出人及ヒ保證人共ニ連帶ノ義
務アルト(第七百十五條)

(第九十九號) 約束手形ノ署名者ハ總テ連帶ノ義務ヲ負フモノナリ
故ニ其償還義務ハ各裏書人及ヒ振出人并ニ保證人モ共ニ連帶ノ責
ニ任セサルベカラサルモノトス尤モ裏書人及ヒ裏書人ノ保證人ニ
於テハ支拂義務ヲ負フタルモノニ非ラサルヲ以テ支拂義務ニ付テ
ハ振出人ト連帶スルモノニ非サルナリ

第八 支拂請求ノ訴ヲ爲ス場合ニ保證人アルトハ振出人ト連帶ニシ
テ訴フルヲ得ルト

(第百號) 振出人ノ保證人ハ第八十五號ニ説明スル如ク振出人ト連
帶ノ責ニ任スルモノナルガ故ニ支拂請求ノ訴ヲ爲スニハ振出人ト
連帶ニテ訴フルヲ便利トス

第九 償還請求ノ訴ヲ爲ス場合ニハ振出人及ヒ裏書人并ニ保證人ア
ルトハ共ニ連帶ニテ訴フルヲ得ルト

(第百一號) 償還義務ハ第九十九號ニ説明スル如ク手形ノ署名者ハ
總テ連帶ノ責ニ任スルモノナルカ故ニ振出人及ヒ裏書人并ニ保證
人アルトハ共ニ連帶ニシテ訴フルヲ便利トス

第十 約束手形金ノ支拂又ハ償還請求ヲ爲スニハ爲替訴訟ヲ爲ス
ヲ得(民事訴訟法第四百九十四條乃至第四百九十六條)

(第百二號) 爲替訴訟ハ其手續最モ簡單ニシテ暑中休暇ノ間ト雖モ
訴ヲ爲シテ裁判ヲ受クルトテ得ルノミナラズ其裁判ヲ受クル判決
ハ擔保ヲ供セスシテ仮執行ノ宣言ヲ受クルモノナリ殊ニ其訴訟ニ
ハ對手人ノ反訴ヲモ許サレサルモノナルカ故ニ通常ノ訴訟ヲ爲ス
ニ比スレハ最モ利益ナリトス

第十一 時効ヲ生セシメタル爲メニ約束手形金ノ支拂請求權ヲ失フ
タルハ其請求權ヲ失ヒタルヨリ三ヶ年間ハ爲替訴訟ヲ以テ振
出人ニ對シ約束手形金ヲ不當ノ利得トシテ請求スルヲ得ル(第七
百十四條)

(第百三號) 約束手形上ノ時効ハ前條ニモ説明スル如ク出事上ノ出
訴期限ヨリ短カキモノナルヲ以テ或ハ怠リテ時効ヲ生セシメ其支
拂請求權ヲ失フ者ナシトセス然レモ手形ノ如キ短キ時効ニテ全ク

支拂請求權ヲ失ハシムルハ酷ニ過クルノミナラス振出人モ其支拂
義務ヲ免カル、ハ不當ノ利得ナルガ故ニ第七百十四條ハ失權者ニ
振出人ノ支拂ハサルガ爲メニ利得スベキ約束手形金ヲ不當ノ利得
トシテ請求スルヲ得ベキ權利ヲ與ヘテ失權者ヲ救護シタルモノナ
リ因テ時効ヲ生セシメタル失權者ハ第七百十四條ニ基キ支拂請求
權ヲ失ヒタルヨリ三ヶ年間ニ振出人ニ對シ爲替訴訟ニテ約束手
形金ヲ不當ノ利得トシテ請求スヘキモノトス前號參看スヘシ
茲ニ一言スヘキハ他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ノ支拂人カ振出人
ヨリ手形資金ヲ受取り之ヲ振出人ニ返還セサルハ其支拂人ニ
請求スルヲ得ヘキモノトス

第十二 他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ノ拒證書作成及償還請求ノ通
知等ヲ怠リタル爲メニ償還請求權ヲ失フタルハ振出人ニ對シ其

償還請求權ヲ失フタルハヨリ三ヶ年間爲替訴訟ニ依リ約束手形金
ヲ不當ノ利得トシテ請求スルヲ得ル(第七百十四條)

(第百四號) 手形上ノ方式ハ最モ嚴密ナルモノナレハ平素注意深キ
商人ト雖モ方式ヲ怠リテ償還請求權ヲ失フナシトセズ此場合モ
前號ノ理由ト全一ナルヲ以テ失權者ハ第七百十四條ニ依リ振出人
ニ對シ振出人ノ支出スヘキ手形金ヲ不當ノ利得トシテ其請求權ヲ
失ヒタル時ヨリ三ヶ年間ニ爲替訴訟ニテ請求スヘキモノトス
茲ニ一言スヘキハ振出人ガ既ニ手形資金ヲ他所拂人ニ交付シ未ダ
之ヲ取戻サ、ルハ他所拂人ニ對シテ請求スルヲ得ベキモノトス
又他所拂ニ非サル通常ノ約束手形ノ請求又ハ拒證書作成等ノ方式ヲ
怠リタル爲メニ裏書人ニ對シ償還請求權ヲ失フタルハ其裏書人
ニ對シテハ如何ナル權利ヲモ行フヲ得サルモノトス

第十三 無効ノ約束手形ヲ受領シタルハ其讓渡人ニ對シ其手形面
ノ金額ヲ損害賠償トシテ請求スヘキ

(第百五號) 無効手形ノ一ハ第十四章ニ説明セリ故ニ復説セス第五
十七號乃至第六十七號參看スヘシ

第十四 不當ニ讓受タル約束手形ノ所持人ハ其約束手形ノ取戻シノ
請求ヲ受クルモ之レヲ返還スル義務ナキ(第七百十條)

(第百六號) 正當ニ讓受ケタルトハ盜取又ハ遺失等ノ情ヲ知ラズシ
テ方式ニ依リ讓渡シテ受タル者ヲ云フ斯ノ如ク正當ニ讓受ケタル
者ハ仮令其約束手形ヲ盜取セラレ又ハ紛失セシメタル眞ノ所持人
タリシ者ヨリ取戻シノ請求ヲ受クルモ之レヲ返還スルノ義務ナキ
モノナリ尤モ引當ノ爲メニ約束手形ノ裏書讓渡ヲ受ケタル後主タ
ル債務ノ辨濟ヲ受ケタルカ又ハ代理ノ爲メニ裏書讓渡ヲ受ケタル

後代理ヲ解任セラレタルカ如キ場合ニハ之レヲ返還セサルベカラサルハ勿論ナリ

第十五 振出人又ハ裏書人ノ破産シタルルハ破産裁判所ニ約束手形而ニ掲ケタル金額ノ債權届ヲ爲スベキ(第千二十二條)

(第百七號) 振出人又ハ裏書人ノ破産シタルルハ破産財團中ヨリ約束手形ノ支拂又ハ償還ヲ受クヘキモノナルヲ以テ仮令支拂期日前ト雖モ破産裁判所ノ破産主任官ニ債權届ヲナサルハカラス又支拂期日前ニ裏書人ノ破産シタルルハ其裏書人ニ償還請求ヲ爲スニ至ルヤ否ヤ期スヘカラサルモ若シ支拂期日ニ振出人ヨリ支拂ヲ拒マレタル時ハ償還請求ヲ爲サルハカラスニ依リ支拂期日前ト雖モ債權届ヲ爲シ置カサルヘカラス之レヲ未必條件ノ債權届ト云フ尤モ支拂期日ニ支拂ヲ受ケタルルハ其債權届ヲ取消スヘキハ勿論ナリ

第十六 所持人ハ振出人ニ對シ全一ナル數通連合ノ組手形ヲ請求スルヲ得ル(第七百四條)

(第百八號) 全一ナル約束手形數通ヲ有スレハ其内一通ヲ紛失セシムルトアルモ擔保ヲ供スレハ他ノ殘存スル約束手形ヲ以テ支拂受クルトヲ得ヘシ又遠方ニ約束手形ヲ送ラントスル場合ニモ先ツ數通中一番ヲ送り後ヨリ二番三番ヲ送ルルハ途中一番ノ紛失スルトアルモ後ヨリ送りタル二番三番ヲ行使スルトヲ得ヘシ殊ニ他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ノ如キハ一通ニテ引受ヲ求メ他ノ數通ハ裏書讓渡ヲ爲ス等ノ便益アルヘシ而シテ其數通ノ約束手形ヲ求ムル方法タル振出人ヨリ約束手形ヲ讓受ケタル所持人ハ直接ニ振出人ニ求ムベキモ裏書人ヨリ約束手形ヲ讓受タル所持人ハ各裏書人ヲ經テ振出人ニ求ムベキモノトス故ニ此場合ニハ自己ノ所持スル約

束手形ト全一ナル文言ノ約束手形數通ヲ作り之レテ各裏書人ニ持
 參シ自己ノ所持スル約束手形ト全一ノ所ニ裏書ヲ受ケ之レテ振出
 人ニ持參シテ署名捺印ヲ受ケタレハ簡便ニ求ムルヲ得ベシ余思
 フニ數通ノ約束手形ヲ求ムルヲ及ヒ之レテ行使スルヲハ隨分手數
 ナ要スルノミナラズ約束手形ハ多ク全地内ニ於テ取引スルモノナ
 レハ實際數通ヲ求ムルガ如キヲハナカルベシ故ヲ以テ茲ニハ只數
 通ノ組約束手形ヲ求ムルヲ得ル一班ヲ示シタルモノナリトス讀
 者之レテ諒セヨ

第十七 償還請求權ヲ有スル約束手形ノ所持人ハ戻爲替ヲ振出スヲ
 得ルヲ(七百九十九條)

(第九百九號) 戻爲替トハ償還請求權ヲ有スル所持人即チ約束手形ノ
 支拂ヲ拒マレタル時第七百八十一條ニ依リ拒證書ヲ作成シ前者ニ

對シ拒證書作成ノヲ及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲シタル所持人又ハ拒
 證書作成ノ免除ヲ受ケタル約束手形ノ支拂ヲ拒ミタル時第七百八
 十三條ニ依リ前者ニ對シ約束手形ノ謄本ヲ送達スルト全時ニ償還
 請求ノ通知ヲナシタル所持人カ其支拂ヲ拒マレタル約束手形ノ金
 額及ヒ満期日後ノ利息并ニ拒證書作事等ノ費用ヲ手形金トナシ自
 カ振出人トナリテ支拂ヲ拒マレタル本手形ノ振出人又ハ裏書人ヲ
 支拂人トナシテ手形ヲ振出スヲ云フ故ニ恰モ第十號ニ説明スル他
 所拂人ヲ掲ケタル約束手形ヲ振出スト全一ノ狀アリトス而シテ此
 戻爲替上ノ權利義務及ヒ行使ノ手續等モ通常手形ニ於ケルト毫モ
 異ナルヲナケレハ戻爲替ノ裏書人ハ其後者ニ對シテ償還義務ヲ負
 ヒ戻爲替ノ振出人ハ他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ノ振出人ノ如ク
 後者ニ對シ裏書人ト均シク償還義務ヲ負フモノトス

第二十二章 約束手形ヲ所持人ノ行使スル實例

第一 單純ニ定メタル期日拂ノ約束手形及ヒ日付後ニ定メタル期日拂ノ約束手形并ニ一覽拂ノ約束手形ヲ讓受ケタル所持人ハ左ノ如ク行使スヘキト

(一) 讓受後約束手形ヲ使用セントセハ裏書讓渡ヲナスベシ

(二) 裏書讓渡ヲ爲サ、ルルハ單純ナル期日拂ノ約束手形及ヒ日付後ニ定メタル期日拂ノ約束手形ハ其支拂期日ニ振出人ニ支拂ヲ請求スベシ

(三) 一覽拂ノ約束手形ハ其振出ノ日ヨリ二ケ年内ハ何時ニテモ振出人ニ呈示シテ支拂ヲ請求スベシ

(四) 振出人ヨリ全部又ハ一分ノ支拂ヲ拒マレタルルルハ其次ノ營業日ニ執達吏又ハ公證人ヲ頼ミ拒證書ヲ作成スベシ

(五) 拒證書ヲ作成シタルルルハ其翌日前裏書人ニ拒證書作成ノ了及ヒ償還請求ヲ爲スヘキ旨書面ニ依リ通知スベシ

(六) 第三ノ支拂ヲ拒マレタル場合ニ拒證書作成ノ免除ヲ受ケタルモノナルルルハ其拒マレタル翌日手形ノ謄本即チ寫シテ作り前裏書人ニ之レヲ送達スルト全時ニ償還請求ヲ爲スベキ旨書面ニ依リ通知スベシ

(七) 拒證書作成ノ了及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲シタルルル又ハ約束手形ノ謄本ノ送達ト償還請求ノ通知ヲ爲シタル時ハ約束手形ノ金額及ヒ支拂期日後年百分十ノ利息并ニ拒證書作成ニ付テノ費用ヲ併セテ償還請求ヲ爲スベシ

(第一百十號) 茲ニ掲クル順序ハ只普通ノ場合ヲ示シタルノミニ過キサレハ必ス此順序ニ從ハサルベカラサルモノニ非ラス例ヘハ第一

ノ裏書讓渡ヲ爲シタルルハ第三以下ノ一ハ之レヲ爲ス一ヲ要セス
裏書讓渡ヲナスシテ第二ノ支拂請求ヲ爲シ振出人ニ於テ支拂ヲ
拒ミタルルハ第三以下ノ一ハ之レヲナサ、ルベカラサルモ支拂ヲ
爲シタルル之レヲナスノ要ナキモノトス

第二 一覽後定期拂ノ約束手形ヲ讓受ケタル所持人ハ左ノ如ク行使
スベシ

(一) 讓受後使用セントセハ裏書讓渡ヲナスベシ

(二) 裏書讓渡ヲナサ、ル場合ニハ呈示期間ノ定メアルルハ其期間
内ニ振出人ニ約束手形ヲ呈示シテ引受ケヲ求ムベシ

呈示期間ノ定メナキルハ約束手形ノ振出ノ日ヨリ二ヶ年内ハ
何時ニテモ振出人ニ約束手形ヲ呈示シテ引受ケヲ求ムベシ

(三) 呈示ヲ爲シテ振出人ヨリ引受ケ拒マレタルルハ其次ノ營業日

ニ執達吏又ハ公證人ヲ頼ミ拒證書ヲ作成スベシ

(四) 拒證書ヲ作成シタルルハ其翌日前裏書人ニ於テ拒證書ヲ作成
シタル一及ヒ振出人ノ支拂ヲ保證スル爲メノ擔保ヲ求ムル旨
書面ニ依リ通知スベシ

(五) 第三ノ引受ケヲ拒マレタル場合ニ拒證書作成ノ免除ヲ受ケタ
ルモノナルルハ其翌日約束手形ノ謄本ヲ作り前裏書人ニ之レ
ヲ送達スルト全時ニ振出人ノ支拂ヲ保證スル爲メノ擔保ヲ請
求スル旨書面ニ依リ通知スベシ

(六) 拒證書作成ノ一及ヒ擔保請求ノ通知又ハ約束手形ノ謄本ノ送
達及ヒ擔保請求ノ通知ヲ爲シタルルハ其通知ヲ受ケタル前裏
書人ニ擔保ヲ請求スベシ

(七) 支拂ノ引受ケヲ拒マレタルト否トヲ問ハズ支拂期日ニハ振出

人ニ支拂ヲ請求スベシ

(八) 支拂期日ニ振出人ヨリ全部又ハ一分ノ支拂ヲ拒ミタルハ其
次ノ營業日ニ執達吏又ハ公證人ヲ頼ミ拒證書ヲ作成スベシ
但シ此場合ハ仮令引受ケ拒證書ヲ作成シタルト雖モ支拂拒
證書ハ之レヲ作成セサルベカラサルモノトス

(九) 拒證書ヲ作成シタルハ其翌日前裏書人ニ拒證書ヲ作成シタ
ルヲ及償還請求ヲ爲スベキ旨書面ニ依リ通知スベシ

(十) 第七ノ支拂ヲ拒マレタル場合ニ拒證書作成ノ免除ヲ受ケタル
モノナルハ其拒マレタル翌日約束手形ノ謄本ヲ作り前裏書
人ニ之レヲ送達スルト全時ニ償還請求スベキ旨書面ニ依リ通
知スベシ

(十一) 拒證書作成ノヲ及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲シタルハ又ハ約束手

形ノ謄本ノ送達及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲シタルハ其通知ヲ
受ケタル前裏書人ニ約束手形ノ金額支拂期日後年百分十ノ利
息并ニ拒證書作成ニ付テノ費用ヲ併セテ償還ノ請求ヲ爲スベ
シ

(第百十一號) 茲ニ掲クル順序モ又普通ノ場合ニ過キサレハ必ス此
順序ニ從ハサルベカラサルモノニ非ス例ヘハ第一ノ裏書讓渡ヲナ
シタルハ第二以下ノヲ之レヲナスヲ要セス又裏書讓渡ヲ爲サ
スシテ第二ノ支拂引受ケヲ求メ振出人ニ於テ引受ケ拒ミタルハ
第三乃至第六ノヲハ之レヲ爲サ、ルヘカラサルモ引受ケヲ爲シタ
ルハ之レヲ爲スノ要ナシ第七ノ支拂請求ヲナシ振出人ニ於テ支
拂ヲ拒ミタルハ第八乃至第十一ノヲハ之レヲ爲サ、ルヘカラサ
ルモ支拂ヲ爲シタルハ是レヲナスノ要ナキヤ勿論ナリトス

第三 他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ヲ讓受ケタル所持人ハノ左ノ如ク行使スヘシ

- (一) 讓渡後手形ヲ使用セントセハ裏書讓渡ヲ爲スヘキ
- (二) 裏書讓渡ヲナサル場合ニハ呈示期間ノ定メアル片ハ其期間内ニ他所拂人ニ約束手形ヲ呈示シテ支拂ノ引受ケヲ求ムヘシ
呈示期間ノ定メナキ片ハ其支拂期日前ニ約束手形ヲ呈示シテ引受ケヲ求ムヘシ
- (三) 呈示ヲ爲シテ他所拂人ヨリ支拂ノ引受ケヲ拒マレタル片ハ其次ノ營業日ニ執達吏又ハ公證人ニ頼ミ拒證書ヲ作成スヘシ
- (四) 拒證書ヲ作成シタル片ハ其翌日振出人又ハ前裏書人ニ拒證書ヲ作成シタル片及ヒ他所拂人ノ支拂ヲ保證スル爲メノ擔保ヲ求ムル旨書面ニ依リ通知スベシ

(五) 第三ノ引受ケヲ拒マレタル場合ニ拒證書作成ノ免除ヲ受ケタルモノナル片ハ其翌日約束手形ノ謄本ヲ作り振出人又ハ裏書人ニ之レヲ送達スルト全時ニ擔保ヲ請求スル者書面ニ依リ通知スベシ

(六) 拒證書作成ノ了及ヒ擔保請求ノ通知又ハ約束手形ノ謄本ノ送達及ヒ擔保請求ノ通知ヲシタル片ハ其通知ヲ受ケタル振出人又ハ前裏書人ニ擔保ヲ請求スベシ

(七) 引受ケヲ拒マレタルト否トヲ問ハス支拂期日ニハ他所拂人ニ支拂ヲ請求スベシ

(八) 支拂期日ニ他所拂人ヨリ全部又ハ一分ノ支拂ヲ拒マレタル片ハ其次ノ營業日ニ執達吏又ハ公證人ヲ頼ミ拒證書ヲ作成スベシ

(九) 拒證書ヲ作成シタルルハ其翌日振出人又ハ前裏書人ニ拒證書ヲ作成シタルト及ヒ償還請求ヲナスベキ旨書面ニ依リ通知スベシ

(十) 第八ノ支拂ヲ拒マレタル場合ニ拒證書作成ノ免除ヲ受ケタルモノナルルハ其拒マレタル翌日約束手形ノ謄本ヲ作り振出人又ハ前裏書人ニ之レヲ送達スルト全時ニ償還請求スベキ旨書面ニ依リ通知スベシ

(十一) 拒證書作成ノト及ヒ償還請求ノ通知又ハ約束手形ノ謄本ノ送達及ヒ償還請求ノ通知ヲ爲シタルルハ其通知ヲ受ケタル振出人又ハ前裏書人ニ約束手形ノ金額及ヒ支拂期日後年百分十ノ利息并ニ拒證書作成ニ付テノ費用ヲ併セテ償還ノ請求ヲ爲スベシ

(第一百十二號) 茲ニ掲クル順序モ普通ノ場合ニ過キサレハ必ス此順序ニ從ハサルモノニ非ス例ヘハ第一ノ讓渡ヲ爲シタルルハ第二以下ノトハ之レヲ爲ストヲ要セス裏書讓渡ヲ爲サスシテ第二ノ支拂ノ引受ケヲ求メ他所拂人ニ於テ引受ヲ拒ミタルルハ第三乃至第六ノトハ之レヲナサルベカラサルモ引受ヲナシタルルハ之レヲナスノ要ナシ第七支拂請求ヲ爲シ他所拂人ニ於テ支拂ヲ拒ミタルルハ第八乃至第十一ノトハ之レヲナサルベカラサルモ支拂ヲ爲シタルルハ之レヲナスノ要ナキヤ勿論ナリ

約束手形式

金.....圓

割印

約束手形

印紙

番號

一金.....圓

右金額來何月何日貴殿又ハ貴殿ノ指圖人へ此手形引換ニ無相違
支拂可申候也

年 月 日

何府縣何市郡區何町村何番他

何府縣何市郡區何町村何番地

何 某 殿

何 某 印

○受取人氏名

○振出人氏名

番號	受取人	期限	日附

百八

組手形ノ書式

番號

印紙

約束手形

組之一

一金.....圓

右金額來何月何日何某殿又ハ全人指圖人へ此手形引換ニ無相違
仕拂可申候也

但此手形仕拂ノ上ハ組ノ二組ノ三ハ無効タルヘキ事

年 月 日

何府縣何市郡區何町村何番地

何 某 印

何府縣何市區何町村何番地

何 某 殿

此手形若シ組ノ二ナル片ハ但書ニ組ノ一三云々ト記
シ組ノ三ナル片ハ但書ニ組之一二云々ト記スベシ

百九

表面之金額
○買受人又ハ讓受人ノ氏名
何某殿又ハ同人指圖人ハ御仕拂可被成候也

年 月 日

何府縣何市郡區何町村何番地

何 某 印

○賣渡人又ハ讓渡人氏名

金額領收ノ書式

裏書

表面ノ金額正ニ受取候也

年 月 日

何 某 印
○手形所持人氏名

此書式ハ爲替手形及ヒ小切手ニモ用フベシ

裏書補箋ノ様式
本紙

〇補箋 百十二

裏書

裏書ノ書式本紙裏書ニ全シ

〇補箋ヲ付シタル者實印

印

裏書

此書式ハ爲替手形ニモ用フベシ

別紙保證ノ書式

保證書

爲替手形又ハ約束手形ノ全文ヲ掲ク

右ニ謄寫スル本手形ノ全額何某殿ニ於テ若シ支拂無之節ハ拙者ニ
於テ無相違仕拂可申候也

何府縣何市郡區何町村何番地

年 月 日

何 某 印

何府縣何市郡區何町村何番地

何 某 殿

別紙制限保証書式

制限保証書

爲替手形又ハ約束手形ノ全文ヲ掲ク

右ニ騰寫スル本手形ノ金額ヲ支拂期日ニ何某殿ニ於テ支拂無之節
ハ拙者ニ於テ(額面ノ幾割トカ又ハ支拂期日ヨリ何十日間ヲ限リト
カ其制限シタル方法ヲ掲クベシ)無相違支拂可申候也

何府縣何市郡區何町村何番地

年 月 日

何 某 印

何府縣何市郡區何町村何番地

執達吏公証人ノ作成スヘキ約束手形ノ拒証書ノ書式

拒証書

約束手形ノ全文ヲ掲ク但シ最後ノ裏書人ニ至ル迄

遺漏ナク記載スヘシ

右ニ騰寫スル本手形ノ所持人某ノ依頼ヲ受ケ明治何年何月何日午前午後
何時何府縣何市郡區何町村何番地ナル振出人某ノ營業所又ハ其住
所ニ到リ振出人某ニ面會シ本人不在ナルハ面會シル者ヲ記入ス
ヘシ本手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メタルモ振出人某又ハ其家人某ハ

云々(拒絶ノ理由)ナリトテ求メニ應セサリシニ付本手形ノ債務者ニ
對シ被拒者某ノ手形上ノ權利ヲ保全スル爲メ……………所ニ於
テ此拒証書ヲ作成シ臨席關係人共ニ左ニ記名調印スルモノナリ
年 月 日

某區裁判所執達吏又ハ某地方裁判所管内公證人

何 某 印

何府縣何市郡區何町村何番地

立會人 何 某 印

全……………

立會人 何 某 印

被拒者本人ノ作成スヘキ約束手形ノ拒証書ノ書式

拒証書

約束手形ノ全文ヲ掲ク但シ最後ノ裏書人ニ至ル迄遺漏ナ
ク記載スヘシ

右ニ謄寫スル拙者所持ノ本手形ノ支拂ヲ求ムル爲メ明治何年何月
何日^{午前}何時何府縣何市郡區何町村何番地ナル振出人某ノ營業所又
ハ其住處ニ到リ振出人某ニ而會シ(本人不在ナルハ而會シタル者
ヲ記入スヘシ)本手形ヲ呈示シタル處振出人某又ハ其家人某ハ云々
(拒絶ノ理由)ナリトテ支拂ヲ爲サ、リシニ付本手形ノ債務者ニ對シ

手形上ノ權利ヲ保全スル爲メ……………某所ニ於テ証人某全
某立會ノ上此拒証書ヲ作成シ証人ト共ニ左ニ記名調印スルモノナ
リ

但シ本手形ノ振出人ノ營業所又ハ住所公証人及ヒ執達吏ノ在
ラサリシニ付商法第七百九十條ニ從フ

年 月 日

何府縣何市郡區何町村何番地

被拒者 何 某 印

全……………

証人 何 某 印

全……………

証人 何 某 印

執達吏公証人ノ作成スヘキ一覽後定期拂ノ約束手形ノ引受拒証書ノ書式

拒証書

約束手形ノ全文ヲ掲ク但シ最後ノ裏書人ニ至ル迄

遺漏ナク記載スベシ……………

右ニ謄寫スル本手形ノ所持人某ノ依頼ヲ受ケ明治何年何月何日午前
何時何府縣何市郡區何町村何番地ナル振出人某ノ營業所又ハ其住
所ニ到リ本人某ニ面會シ(本人不在ナルハ面會シタル者ヲ記入ス
ヘシ)本手形ヲ呈示シテ支拂ノ引受ケヲ求メタルモ振出人某又ハ其
家人某ハ云々(拒絶ノ理由)ナリトテ求メニ應セサリシニ付本手形ノ
債務者ニ對シ被拒者某ノ手形上ノ權利ヲ保全スル爲メ……………

所ニ於テ此拒証書ヲ作成シ臨席關係人ト共ニ左ニ記名調印スルモノナリ

年 月 日

某區裁判所執達吏又ハ某地方裁判所管内公證人

何 某 印

何府縣何市郡區何町村何番地

立會人 何 某 印

全.....

立會人 何 某 印

被拒者ノ作成スヘキ一覽後定期拂ノ約束手形ノ引受ケ拒証書ノ書式

拒 証 書

約束手形ノ全文ヲ掲ク但シ最後ノ裏書人ニ至ル迄

遺漏ナク記載スヘシ.....

右ニ謄寫スル拙者所持ノ本手形ノ支拂引受ケヲ求ムル爲メ明治何年何月何日^{午前}何時何府縣何市郡區何町村何番地ナル振出人某ノ營業所又ハ其住所ニ到リ振出人某ニ面會シ(本人不在ナルキハ面會シタル者ヲ記入スヘシ)本手形ヲ呈示シテ引受ケヲ求メタルモ振出人某又ハ其家人某ハ云々(拒絶ノ理由)ナリトテ引受ケヲ爲サ、リシニ付本手形ノ債務者ニ對シ手形上ノ權利ヲ保全スル爲メ.....

某所ニ於テ證人某全某立會ノ上此拒證書ヲ作成シ證人ト共ニ左ニ
記名調印スルモノナリ

但シ本手形ノ振出入ノ營業所又ハ住所ハ公證人及ヒ執達吏ノ
在ラサリシニ付商法第七百九十條ニ從フ

年 月 日

何府縣何市郡何町村何番地

被拒者 何 某 印

全.....

證人 何 某 印

全.....

證人 何 某 印

一覽後定期拂ノ約束手形ノ引受ケテ拒マレタル片ニ擔保ヲ求ムル通
知書ノ書式

擔保要求ノ通知書

約束手形ノ全文ヲ掲ク但シ最後ノ裏書人ニ至ル迄遺漏ナ
ク記載スヘシ

右ニ謄寫スル拙者所持ノ一覽後定期拂ノ約束手形ヲ呈示シ振出人
ニ支拂期日ノ確定ヲ求メタル處云々(拒絶ノ理由ヲ掲クヘシ)ニ依リ
支拂期日ノ確定ヲ爲サ、ルニ付商法第七百三十五條ノ規定ニ基キ
昨何日引受拒証書ヲ作成致候條貴殿ニ對シ擔保ノ請求可仕候右商

法第七百三十九條ニ依リ及御通知候也

何府縣何市郡區何町村何番地

年 月 日

何 某 印

何府縣何市郡區何町村何番地

何 某 殿

約束手形ノ拒證書作成ノ通知及ヒ償還請求ノ通知書ノ書式

拒證書ノ作成ノ通知及ヒ償還請求ノ通知書約束手形ノ全
文ヲ掲ケ但シ最後ノ裏書人ニ到ル迄遺漏ナク記載スヘシ

右ニ謄寫スル拙者所持ノ本手形金ヲ滿期日振出人某ニ支拂ヲ求メ
タル處云々(拒絕ノ理由)ニ依リ支拂ヲ爲サ、リシニ付商法ノ規定ニ
基キ昨日拒證書作成致候條貴殿ニ對シ償還請求可仕候右商法第
七百八十一條ニ依リ及御通知候也

何府縣何市郡區何町村何番地

年 月 日

何 某 印

何府縣何市郡區何町村何番地

何 某 殿

拒証書ノ作成ノ免除ヲ受タル約束手形ノ償還請求ノ通知書ノ書式

償還請求通知書

約束手形ノ全文ヲ掲ケ但シ最後ノ裏書人ニ至ル迄遺漏ナク記載スヘシ

右ニ謄寫スル拙者所持ノ本手形金ヲ満期日振出人某ニ支拂ノ求メ
ヲ爲シタル處云々(拒絶ノ理由)ニ依リ支拂ヲ爲サ、リシニ付貴殿ニ
對シ償還請求可致前書約束手形ノ謄本相添商法第七百八十一條全
第七百八十三條ニ依リ及御通知候也

年 月 日

何府縣何市郡區何町村何番地

何 某 印

何府縣何市郡區何町村何番地

何 某 殿

償還計算書

百廿八

金額	摘要
一金.....圓	約束手形金
.....	何年何月何日何百分何ノ利息何
.....	拒證書ノ作成料
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

合計.....

右之通ニ有之候也

何府縣何市郡區何町村何番地

何 某 印

何府縣何市郡區何町村何番地

何 某 殿

約束手形ヲ紛失セシメ又ハ盜取セラレタル場合ニ支拂差止メヲ爲ス
ヘキ通知書ノ書式

通知書

何年何月何日付貴殿ノ振出ニシテ何某殿及ヒ何某殿ノ裏書アル金
額何百圓ノ約束手形ヲ拙者所持中即チ何年月日紛失セシメ又ハ盜
取セラレ候條右手形ヲ以テ支拂請求申出ル者アルハ支拂御停止
相成度此段不取敢及御通知候也

何府縣何市郡區何町村何番地

年 月 日

何 某 印

何府縣何市郡區何町村何番地

何 某 殿

約束手形ヲ紛失セシメ又ハ盜取セラレタル場合ニ償還差止メヲ爲ス
ヘキ通知書ノ書式

通知書

何年何月何日付何某殿ノ振出ニシテ貴殿及ヒ何某殿ノ裏書アル金
額何百圓ノ約束手形ヲ拙者所持中即チ何年月日紛失セシメ又ハ盜
取セラレ候條右手形ヲ以テ償還請求申出ル者アルハ償還御停止
相成度此段不取敢及御通知候也

何府縣何市郡區何町村何番地

年 月 日

何 某 印

何府縣何市郡區何町村何番地

何 某 殿

公示催告手續申立書

何年何月何日付何府縣何市郡何町村何番地何某ノ振出ニシテ何府縣何市郡區何町村何番地何某及ヒ……………何番地何某ノ裏書アル何年何月何日拂ノ約束手形ヲ私所持中即チ何年何月何日紛失セシメ又ハ盜取セラレタル等ノ事實ヲ掲クヘシ候條右約束手形ノ公示催告手續被成下此段奉願候也

何府縣何市郡區何町何番地

年 月 日

某 裁判所

殿

何 某 印

此書式ハ手形ノ寫ナキ片ニ用フヘキモノナリ故ニ手形ノ寫アル片ハ初メニ手形ノ全文ヲ掲ケ右ニ謄寫スル約束手形ヲ私所持中云々ト記載スヘシ

約束手形實用註釋終

改正商法手形法

總 則

第六百九十九條 手形ハ或ル金額カ支拂ハル可キ旨ヲ明記シ指圖式又ハ無記名式ニ

テ發行スル信用證券タリ

手形ニハ條件ヲ付スルコトヲ得ス

第七百條 商ヲ爲スコトヲ得ル各人ハ爲替義務ヲ負フコトヲ得

第七百一條 手形ニ爲替無能力者ノ署名アルモ其他ノ署名ノ効力ハ之カ爲メニ妨ケ

ラルコト無シ

第七百二條 手形ノ要件ヲ外觀ノ爲メニノミ記入シタル手形ハ其情ヲ知リタル者ノ

爲メニハ之ヲ手形ト看做サス

第七百三條 他人ヨリ特ニ委任ヲ受クルコト無ク又ハ代理ノ事實ヲ明記スルコト無

クシテ他人ノ爲メニ手形ニ署名スル者ハ此ニ因リテ自己ニ責任ヲ負フ

第七百四條 手形ノ受取人ハ直チニ振出人ニ對シ又其後ノ各所持人ハ其前者ヲ經由シテ振出人ニ對シ番號ヲ記シタル同文ノ手形敷通ノ交付ヲ求ムルコトヲ得
手形ノ各所持人ハ需用ニ應シテ自ラ手形ノ謄本ヲ作ルコトヲ得

第七百五條 手形ハ其文言ニ因リテ直接ニ義務ヲ負ハシム但法律又ハ商慣習ニ依リテ例外ト爲ス可キモノハ此限ニ在ラス

第七百六條 法律上ノ要件ヲ掲ケサル手形又ハ其要件ト共ニ違法ノ事項ヲ掲ケタル手形又ハ文言カ互ニ牴觸シ其牴觸ヲ法律ノ許セル方法ヲ以テ取除クコトヲ得サル手形ハ無効タリ

第七百七條 手形上ノ重要ナラサル附記ハ法律上ノ要件ニ適スル手形ノ文言ノ効力ヲ妨クルコト無ク又爲替上ノ義務ヲ生セシムルコト無シ

第七百八條 偽造又ハ變造ノ手形ハ手形トシテ其効ヲ有ス然レトモ偽造、變造ニ因リテ義務ヲ生スルコト無シ但一旦生シタル義務ハ變更セサルモノトス

偽造變造ニ付テノ異議ハ其偽造變造ヲ爲シタル者又ハ其情ヲ知リテ手形ヲ取得タル者ニ對シテ之ヲ起スコトヲ得

第七百九條 爲替義務ハ其負擔ニ關シテハ手形ニ記載シタル他ノ法律ニ從ヒ若シ其地ヲ記載セサルトキハ債務者ノ住所ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定メ又其履行ニ關シテハ履行ヲ爲ス可キ地ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定ム

爲替上ノ權利ヲ行使シ及ヒ保全スル爲メニスル行爲ハ其行爲ノ地ノ法律ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス但手形ニ其他ノ地ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十條 手形又ハ小切手ノ占有者ニシテ正當ノ方法ニ依リ且甚シキ怠慢ニ出テスシテ之ヲ取得シタル者ハ其手形又ハ小切手若クハ其代金ノ引渡ノ請求ニ應スル義務ナシ但其占有ノ原因消滅シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十一條 盜取セテレ又ハ紛失シ若クハ滅失シタル手形及ヒ小切手ニ付テハ第四百三條ノ規定ヲ適用ス

第七百十二條 爲替手形引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル爲替上ノ請求權ハ滿期日ヨリ三ヶ年ヲ以テ時効ニ罹リ又所持人若クハ裏書讓渡人ヨリ振出人若クハ前裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ハ請求ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ三ヶ年ヲ以テ時効ニ罹ル

時効ハ訴ヲ起シ其他各箇ノ裁判上ノ手續ヲ爲スニ因リテ中斷セラレ又裁判所ノ判決ニ依リ又ハ書面ニ明示シテ債務ヲ承認シ新債務ト爲シタルニ因リテ消滅ス

第七百十三條 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ手形ニ在テハ時効ハ呈示ニ付キ規定セラレタル期間ノ滿了ヨリ始マル但其滿了前ニ呈示ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十四條 手形ヨリ生スル請求權ヲ時効ニ因リ又ハ法律ニ規定シタル行爲ヲ怠リタルニ因リテ失ヒタル者ハ其失ヒタルニ拘ハラズ支拂人振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シ此等ノ者カ支拂ハサル爲替資金若クハ取戻シタル爲替資金ニ因ノテ已レテ利シタル限度ニ於テ右請求權ヲ主張スルコトヲ得第七百十一條ノ場合ニ係ルモノ

ト雖モ亦同シ

第七百十五條 總テ手形ニ署名ヲ爲シタル者ハ此ニ因リ連帶シテ義務ヲ負擔ス然レトモ此連帶義務ハ各義務者ニ於テ特立ノモノトス
爲替ノ訴ハ其總員ニ對シ又ハ其一人ニ對シテ之ヲ起スコトヲ得

第一節 爲替手形

第一款 振出

第七百十六條 爲替手形ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 振出ノ年月日及ヒ場所

第二 爲替金額但文辭ヲ以テ記ス可シ

第三 支拂人ノ氏名

第四 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨及ヒ滿期日並ニ支拂地

第五 振出人ノ署名、捺印

第七百十七條 振出人ハ爲替手形ヲ自己ノ指圖ニテ振出シ又ハ自己ニ宛テ振出スコトヲ得

第七百十八條 爲替手形ノ金額二十五圓以上ナルトキハ無記名式ニテ振出ズコトヲ得

第七百十九條 満期日ハ定マリタル日又ハ日附ノ後定マリタル期間又ハ一覽ノ時又ハ一覽後定マリタル期間ニ於テノミ之ヲ定ムルコトヲ得

第七百二十條 爲替手形ニ満期日ヲ記載セサルトキハ其手形ハ一覽ノ時ニ満期ト爲ル

第七百二十一條 支拂人ノ住地又ハ其他ノ〔地所拂爲替手形〕ハ支拂地トシテ之ヲ記載スルコトヲ得他ノ地ヲ記載シタル場合ニ在テ爲替手形ニ支拂ノ爲メ他人〔他所拂人〕ヲ明記セサルトキハ支拂人ハ其記載シタル地ニ於テ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

第二款 裏書

第七百二十二條 爲替手形ノ受取人及ヒ其後ノ各所持人ハ若シ其手形ニ反對ヲ明記セサルトキハ裏書ヲ以テ之ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得

第七百二十三條 裏書ニハ其年月日、場所、裏書讓渡人ノ署名、捺印及ヒ裏書讓受人ノ氏名アルコトヲ要ス然レトモ裏書讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第七百二十四條 裏書ニハ其日ヨリ前ノ日附ヲ爲スコトヲ禁ス之ニ違フトキハ偽造變造ノ刑ニ處ス

第七百二十五條 無記名式ニテ振出シ又ハ白地ニテ裏書讓渡ヲ爲シタル爲替手形ハ交付ノミヲ以テ之ヲ轉付スルコトヲ得

第七百二十六條 爲替手形ハ満期後ト雖モ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得又代理若クハ擔

保ノ爲メ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第七百二十七條 支拂ノ爲メニスル呈示及ヒ拒證書ノ作成ヲ事情ニ因リテ正當時期

内ニ爲スコトヲ得サル爲替手形ノ裏書讓渡ハ滿期後ノ爲替手形裏書讓渡ニ同シ

第七百二十八條 滿期後ノ爲替手形ノ裏書讓渡ハ其裏書讓渡人ノ權利及ヒ義務ノミ

ヲ裏書讓受人ニ轉付スルモノトス然レトモ裏書讓受人ハ滿期後ニ爲替手形ノ裏書

讓渡ヲ爲シタル各人ニ對シテ如何ナル方式ニモ羈束セラレス且獨立シタル償還請

求權ヲ取得ス

第七百二十九條 代理ノ爲メ又ハ擔保ノ爲メニスル裏書讓渡ハ其目的ヲ爲替手形ニ

記載セサルトキハ第三者ニ對シテ眞ノ裏書讓渡タリ

第七百三十條 代理ノ爲メニスル裏書讓渡ニシテ其目的ヲ記載シタルトキハ其裏書

讓受人ハ裏書讓渡人ノ權利及ヒ義務ヲ行フ但特別ノ記載アルニ非サレバ眞ノ裏書

讓渡ヲナスコトヲ得ス

第七百三十一條 擔保ノ爲メニスル裏書讓渡ニシテ其目的ヲ記載シタルトキハ其裏

書讓受人ハ裏書讓渡人ト同一ノ權利ヲ行フ但債務ノ辨濟ヲ受ケサル場合ノ外眞ノ

裏書讓渡ヲナスコトヲ得ス

第七百三十二條 裏書讓渡ハ各裏書讓渡人ノ順序カ裏書讓受人ニ至ルマテ間斷ナキ

トキニ限り裏書讓受人ノ爲メ効力アリ但代理又ハ擔保ノ爲メ裏書讓渡ヲ爲シタル

爲替手形ハ裏書讓渡人ニ於テ更ニ裏書讓渡ヲ爲スコトヲ得

第七百三十三條 裏書讓渡ノ法律上ノ効力ハ爲替手形ニ裏書讓渡ヲ禁スル旨ヲ記載

シタルカ爲メ之ヲ失フコト無シ但之ヲ禁シタル者ニ對スル償還請求權ハ此カ爲メ

ニ消滅ス

第三款 引受

第七百三十四條 爲書手形ノ所持人ハ其手形ニ別段ノ記載ナキトキハ滿期日前ニ引

受ノ爲メ支拂人ニ之ヲ呈示スルコトヲ得若シ支拂人其引受ヲ爲サ、ルトキハ拒證

書ヲ作ルコトヲ得

振出入ハ所持人ニ於テ引受ノ爲メ其手形ノ呈示ヲ爲ス可ク若シ爲サ、ルトキハ償還請求權ヲ失フ可キ旨ヲ記スルコトヲ得此場合ニ於テ支拂人引受ヲ爲サ、ルトキハ其翌日拒證書ヲ作ル可シ

第七百三十五條 一覽後定期拂ノ爲替手形ハ別ニ短キ呈示期間ノ記載ナキトキハ日附後遅クトモ二ヶ年内ニ引受ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ若シ之ヲ呈示セサルトキハ振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フ

支拂人カ方式ニ依レル引受ヲ拒ミ若クハ引受ノ日附ヲ爲スコトヲ拒ムトキハ拒證書ヲ作ルコトヲ得ス此場合ニ於テハ拒證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス若シ拒證書ヲ作ラサルトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス但其翌日迄ニ拒證書ヲ作ラサルトキハ振出入及ヒ裏書讓渡人ニ對シテ擔保ヲ求ムルコトヲ得ス

第七百三十六條 引受ハ支拂人カ爲替資金ヲ受取リタルト否トヲ問ハス爲替手形ノ

所持人ニ對シテ満期日ニ爲替金額ヲ支拂フ義務ヲ支拂人ニ負ハシム又所持人ニ引受ノ旨ヲ記シタル爲替手形ヲ還付シタル後ハ強暴又ハ詐欺ノ場合ヲ除ク外之ヲ取消スコトヲ得ス

第七百三十七條 引受ハ支拂人カ爲替手形ニ引受ノ旨ヲ記シテ署名、捺印ヲ爲シ又ハ署名捺印ノミヲ爲スニ因リテ成ル此方式ニ依ラサル引受ノ効力ハ第八百五條ノ規定ニ從フ

第七百三十八條 即日ニ引受ヲ爲サス又ハ條件若クハ其他ノ制限ヲ以テ之ヲ爲シタルトキハ引受人ハ其引受ノ爲メ當然羈束セラル、モ所持人ハ之ヲ拒ミタリト看做スコトヲ得若シ爲替金額ノ一分ニ付テノミ引受ヲ爲シタルトキハ他ノ部分ニ付テハ其引受ヲ拒ミタリト看做ス

第七百三十九條 所持人引受ノ拒證書ヲ作りタルトハ其作成ヲ遅延ナク振出人又ハ裏書讓渡人ニ通知ス可シ

右ノ通知ヲ爲シタル所持人ハ振出人又ハ裏書讓渡人ニ對シテ爲替金額及ヒ拒證書ノ費用並ニ戻爲替ノ費用ヲ滿期日ニ支拂フコトニ付テノ擔保ヲ求ムル權利ヲ有シ各裏書讓渡人ハ自ラ擔保ヲ爲シタルト否トヲ問ハス前者ニ對シテ右同一ノ權利ヲ有ス但拒證書ノ交付ヲ受クルニ非サレハ擔保ヲ供スル義務ナシ

當事者ノ一人カ爲シタル通知及ヒ其受ケタル擔保ハ其後者總員ノ爲メニモ効力アリ

第七百四十條 振出人及ヒ裏書讓渡人ハ擔保ヲ爲スニ換ヘテ前條ニ掲ケタル一切ノ金額ヲ即時ニ所持人ニ支拂ヒ又ハ即時ニ供託所ニ寄託スルコトヲ得

第七百四十一條 擔保ハ又寄託ハ後ニ至リ爲替手形ノ引受アリタルトキ又ハ爲替金額若クハ償還金額ノ支拂アリタルトキ又ハ所持人カ時効若クハ懈怠ニ因リテ爲替手形上ノ權利ヲ失ヒタルトキハ其生シタル費用ヲ引去リテ之ヲ還付スルコトヲ要ス

第七百四十二條 第七百四十條ノ規定ニ從ヒテ爲替金額及ヒ費用ヲ所持人ニ支拂ヒタル者ハ其所持人ニ對シテ裏書讓渡ヲ求メ且爲替手形ト共ニ受取證ヲ記シタル償還計算書ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第四款 榮譽引受

第七百四十三條 支拂人カ引受ヲ拒ミタル爲替手形ニ同地ニ於ケル豫備支拂人ヲ掲ケタルトキハ其爲替手形ヲ拒證書ト共ニ引受ノ爲メ遲延ナク豫備支拂人ニ呈示ス可シ

第七百四十四條 豫備支拂人ヲ掲ケタルトキト雖モ支拂人及ヒ第三者ハ拒マレタル爲替手形ヲ振出人又ハ裏書讓渡人ノ榮譽ノ爲メニ引受クルコトヲ得然レトモ所持人ハ此ノ如キ參加ヲ許諾スル義務ナシ

第七百四十五條 二人以上ノ參加人アルトキハ最モ多數ノ義務者ノ榮譽ノ爲メニ引受ヲ爲ス者ヲ以テ榮譽引受人トス若シ受榮譽者ヲ記載セサルトキハ振出人ヲ受榮

譽者ト看做ス

第七百四十六條 豫備支拂人ノ引受其他所持人カ許諾シタル参加人ノ引受ハ受榮譽者及ヒ其後者ニ擔保ヲ供スル義務ヲ免カレシム

第七百四十七條 榮譽引受ハ支拂人カ支拂ヲ爲サ、ルトキニ於テ参加人ニ滿期後爲替金額ヲ支拂フ義務ヲ負ハシム

第七百四十八條 榮譽引受ハ参加人爲替手形ニ之ヲ記載シテ署名捺印シ且證書若クハ其附箋ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第七百四十九條 拒證書ハ拒證書費用ノ辨償ヲ受ケタル上之ヲ参加人ニ交付シ参加人ハ遅クトモ拒證書作成ノ翌日受榮譽者ニ榮譽引受ヲ爲シタル旨ヲ通知シテ拒證書ヲ送付スルコトヲ要ス若シ此事ヲ怠ルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ責任ヲ負フ

第七百五十條 受榮譽者及ヒ其前者ハ擔保ヲ求ムル權利ヲ有ス然レトモ所持人ハ第

七百四十四條ニ依リテ榮譽引受ヲ許諾セサルトキニ非サレハ之ヲ有セス

第五款 保證

第七百五十一條 爲替手形ニ於テ爲替債務者ノ署名ニ自己ノ署名ヲ添フル第三者ハ其債務者ト連帶シテ義務ヲ負フ

第七百五十二條 前條ノ義務ヲ負擔スルニハ別ニ書面上ノ陳述ヲ以テスルコトヲ得
第七百五十三條 爲替保證ノ義務ハ明示ノ契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得然レトモ其制限ハ契約ヲ爲シタル當事者間ニノミ効力アリ

第六款 支拂

第七百五十四條 爲替金額ハ爲替手形ニ記載シタル貨幣ヲ以テ之ヲ支拂フ可シ若シ特ニ貨幣ノ種類ヲ表示セサルトキハ支拂地ニ於テ商人間ニ流通スル貨幣ヲ以テ支拂ヲ爲ス意思ナリト推定ス

第七百五十五條 支拂ハ第七百七十八條ノ場合ヲ除ク外ハ支拂人カ引受ヲ爲シタル

ト否トヲ問ハス満期日ニ支拂人ノ方ニテ之ヲ受クルモノトス

支拂恩惠期日ハ之ヲ許サス然レトモ其地慣習ノ支拂日ハ之ヲ遵守スルコトヲ要ス

第七百五十六條 満期日カ一般ノ休日ニ當ルトキハ其後ノ業日ヲ以テ支拂日トス

第七百五十七條 一覽拂爲替手形ハ呈示ノ日ニ満期ト爲ル若シ日附後二ケ年内ニ呈

示ヲ爲サ、ルトキ又ハ二ケ年内ノ呈示期間ヲ手其手ニ定メサルトキハ日附後二ケ

年ヲ以テ満期ト爲ル若シ正當ノ時期ニ呈示ヲ爲サ、ルトキハ所持人ハ振出人及ヒ

裏書讓渡人ニ對スル償還請求權ヲ失フ

第七百五十八條 債權者カ爲替金額ヲ満期日ニ受取テサルトキハ支拂人ハ債權者ノ

費用及ヒ危險ニテ其金額ヲ供託所ニ寄託スルコトヲ得此場合ニ於テハ支拂人ハ甚

シキ怠慢ニ付テノミ責任ヲ負フ

第七百五十九條 債權者ハ満期日前ニ支拂ヲ受クル義務ナシ若シ満期日前ニ支拂ヲ

爲シタルトキハ債務者其危險ヲ負擔ス

第七百六十條 債權者ハ満期ノ時又ハ後ニ所持人ニ支拂ニ爲スヲ以テ其責ヲ免カル

但實際債務者ニ甚シキ怠慢アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百六十一條 支拂ハ受取證ヲ記シタル爲替手形ノ交付ト引換ニ非サレハ之ヲ受

クルコトヲ得ス

債權者ハ一分ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス但一分ノ支拂ノ場合ニ在テハ爲替手形ニ其

支拂ヲ記入シ且其支拂ニ付テノ別段ノ受取證ヲ債務者ニ交付ス可シ

第七百六十二條 爲替手形ヲ數通ニシテ振出シタルトキハ債務者ハ其中ノ孰レニ依

リテ支拂ヲ爲スモ此ニ因リテ其責ヲ免カル然レトモ裏書アル一通又ハ支拂人ノ引

受ヲ爲シタル一通ヲ所有者トシテ占有スル第三者ノ權利ヲ妨ケス

第七百十條及ヒ第七百十一條ノ規定ハ一爲替手形ノ數通ノ引渡及ヒ喪失ニモ之ヲ

適用ス

第七百六十三條 引受人ハ一爲替手形ノ數通中ニ其引受ヲ記セサルモノニ對シテハ

擔保ヲ供セシメタル上ニ非サレハ支拂ヲ爲ス義務ナシ引受ヲ記シタル爲替手形數
通アル場合ニ在テハ之ヲ合シテ引渡サ、ルトキモ亦同シ若シ擔保ノ提供ヲ爲スニ
拘ハラス引受人カ支拂ヲ拒ムトキハ所持人ハ拒證書ヲ作ルコトヲ得

第七百六十四條 満期ノ時又ハ後ニ於テ爲替手形上ノ正當ノ所持人ニ爲ス支拂ハ其
所持人カ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ第七百十條及ヒ第七百十
一條ノ場合ニ限り裁判所ノ命令ヲ以テノミ之ヲ差押フルコトヲ得

第七百六十五條 支拂ニ對シ前條以外ノ方法ヲ以テスル故障又ハ債權者ノ知ラサル
人ニ爲ス支拂ニ付テハ第四百條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第七百六十六條 第七百十條及ヒ第七百十一條ノ場合ニ在テハ爲替手形ニ付キ自己
ノ所有權ヲ疏明シ且裁判所ノ命令ヲ得タル者ハ判決ノ確定前ニ擔保ヲ供シテ爲替
金額ノ支拂ヲ求メ又ハ擔保ヲ供セスシテ爲替金額ヲ供托所ニ寄託スルヲ求ムルコ
トヲ得此寄託ノ場合ニ在テモ第七百五十八條ノ規定ヲ適用ス

第七百六十七條 支拂人カ正當ノ理由ナクシテ満期日ニ爲替金額ノ支拂又ハ寄託ヲ
拒ムトキハ所持人ハ其次ノ業日ニ拒證書ヲ作り且所持人カ償還請求ヲ爲サント欲
スル者ニ拒證書ノ作成ヲ通知スルコトヲ要ス然レトモ所持人ハ爲替手形ニ明記ア
ルニ因リテ拒證書作成ノ義務ヲ免カル、コトヲ得

第七款 榮譽支拂

第七百六十八條 拒マレタル爲替手形ハ振出入又ハ裏書讓渡人ノ榮譽ノ爲メ榮譽引
受人支拂人又ハ第三者之ヲ支拂フコトヲ得

第七百六十九條 豫備支拂人其他ノ参加人ノ引受ヲ記シタル爲替手形ハ拒證書作成
ノ後直チニ榮譽引受人ニ支拂ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ

第七百七十條 榮譽支拂若クハ其拒絶又ハ其提供ハ何レノ場合ニ於テモ之ヲ支拂拒
證書又ハ其附箋ニ記載ス可シ

其拒證書ハ爲替手形ト共ニ拒證書費用ノ辨償ヲ受ケタル上之ヲ榮譽支拂人ニ交付

ス

第七百七十一條 榮譽支拂人ハ引受人振出人及ヒ裏書讓渡人ニ對シテ所持人ノ權利

ヲ承繼ス但其權利ヲ主張スルニハ所持人ト同一ノ義務ヲ履行スルコトヲ要ス

第七百七十二條 榮譽支拂ヲ受榮譽者ノ後者總員ヲシテ責ヲ免カレシム

第七百七十三條 榮譽支拂ヲ提供スル者二人以上アルトキハ支拂人ヲ以テ榮譽支拂

人トシ之ニ次テハ最モ多數ノ義務者ヲシテ責ヲ免カレシムル者ヲ以テ榮譽支拂人

トス

第七百七十四條 所持人ハ榮譽支拂ヲ受クルコトヲ拒ムニ因リテ受榮譽者及ヒ其後

者ニ對スル償還請求權ヲ失フ

第八款 償還請求

第七百七十五條 支拂人カ滿期日ニ爲替手形ノ支拂ヲ爲サ、ルトキハ所持人ハ振出

人及ヒ裏書讓渡人ニ對シ爲替金額及ヒ其利息並ニ不拂ニ因リテ生シタル一切ノ費

用ニ付キ償還請求權ヲ有ス

第七百七十六條 所持人ハ爲替手形ヲ滿期日ニ支拂ノ爲メ呈示ス可シ若シ支拂ヲ爲

サ、ルトキハ滿期日ノ次ノ業日ニ支拂拒證書ヲ作ル可シ但第七百六十一條第二項

ニ掲ケタル一分ノ支拂ノ場合ニ於テモ亦同シ

第七百七十七條 支拂拒證書ハ既ニ引受拒證書ヲ作りタルトキニモ債務者カ死亡シ

又ハ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ其所在ノ知レサルトキニモ之ヲ作ル可

シ

第七百七十八條 引受人ニ對シテ爲替權利ヲ保全スルニハ滿期日ニ於ケル呈示及ヒ

拒證書ノ作成ヲ要セス然レトモ他所拂爲替手形ハ他所拂人若シ他所拂人ノ記載ナ

キトキハ支拂人ニ其爲替手形ヲ支拂フ可キ地ニ於テ支拂ノ爲メ之ヲ呈示ス可シ若

シ支拂ヲ爲サ、ルトキハ同地ニ於テ拒證書ヲ作ル可シ

第七百七十九條 引受人カ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ其他資力ノ確ナラサル

ニ至リタル場合ニ於テ爲替支拂ノ爲メ十分ナル擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ滿期日前ニ支拂拒證書ヲ作りテ償還請求ヲ爲スコトヲ得

第七百八十條 所持人ハ振出人及ヒ裏書讓渡人ノ各員又ハ總員ニ對シ償還請求ヲ爲

スコトヲ得又償還請求ヲ受ケタル裏書讓渡人ハ其前者ニ對シテ同一ノ權利ヲ有ス

第七百八十一條 償還請求ヲ爲ス者ハ第七百三十九條ノ規定ニ依リテ引受拒證書作

成ノ通知ヲ爲シタルニ拘ハラス尙ホ其償還請求ヲ爲サント欲スル前者ニ書面ヲ以

テ其請求及ヒ支拂拒證書作成ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス其通知ハ所持人ニ在テハ拒

證書ヲ作りタル日ノ翌日裏書讓渡人ニ在テハ通知書ヲ受取りタル日ノ翌日之ヲ爲

ス可シ但裏書讓渡人ノ通知ハ其後者ノ爲メニモ効力アリ

第七百八十二條 前者ニ對シテ償還請求ヲ爲シタルモ此カ爲メニ其後者ハ償還義務

ヲ免カレス

第七百八十三條 拒證書作成ノ義務免除ニ因リテ拒證書作成ノ權利及ヒ償還請求權

ハ消滅セス然レトモ此場合ニ於テ其免除ヲ爲シタル者ノ後者ニ在テハ其免除ヲ約シタル者ニ對シ騰本ヲ以テ爲替手形ノ送付ヲ爲スト同時ニ書面ニテ償還請求ノ通知ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第七百八十四條 削除

第七百八十五條 償還請求權ハ支拂人カ爲替資金ヲ受取りタルトノ抗辨ノ爲メニ効

力ヲ失フコリ無シ然レトモ爲替資金ヲ供スル義務アル者ニ對シテハ其者カ爲替資

金ヲ供セサリシトノ抗辨ヲ爲スコトヲ得

第七百八十六條 償還請求ハ左ノ額ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得

第一 爲替金額及ヒ滿期ノ翌日ヨリ起算シタル年百分ノ十ノ利息

第二 拒證書ノ費用其他必要ナル立替金

第三 戻爲替ヲ振出シタルトキハ其費用

第七百八十七條 削除

第七百八十八條 償還義務者ハ爲替手形拒證書及ヒ受取證ヲ記シタル償還計算書ノ交付ヲ受クルニ非サレハ支拂ヲ爲ス義務ナシ

第七百八十九條 爲替義務者ハ償還金額ノ支拂ト引換ニテ受取證ヲ爲シタル爲替手形及ヒ支拂拒證書ノ交付ヲ所持人ニ求ムル權利アリ

第九款 拒證書作成

第七百九十條 拒證書ハ裁判所ノ役員又ハ公證人之ヲ作ルモノトス若シ其地ニ此等ノ人ナキトキハ被拒者ニ於テ證人二人ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ但其證人ハ成年ノ男子タルコトヲ要ス

第七百九十一條 拒證書ハ拒者ノ營業場若シ營業場ナキトキハ其住居ノ内若クハ傍ニ於テ之ヲ作ル可シ但拒者不在ナルトキ又ハ臨席ヲ肯セス若クハ來入ヲ拒ムトキト雖モ亦同シ

若シ己ムヲ得サル場合アルトキハ裁判所又ハ公證人役場ニ於テ拒證書ヲ作ルコト

ヲ得

第七百九十二條 拒者ノ營業場及ヒ住居ノ知レサル場合ニ於テ支拂地ノ官署ニ問合ヲ爲スモ尙ホ知ルコトヲ得サルトキハ拒證書ハ其官署内ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス

第七百九十三條 法律上定メタル場所ノ外ニ於テモ拒者ノ承諾アルトキハ拒證書ヲ作ルコトヲ得

第七百九十四條 一般ノ休日ニハ拒證書ヲ作ルコトヲ得ス然レトモ通常ノ取引時間外ニ於テ之ヲ作ルハ妨ケナシ

第七百九十五條 拒證書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 爲替手形ノ全文但最後ノ裏書ニ至ルマテ遺漏ナク記載ス可シ

第二 拒者ノ臨席又ハ不在

第三 引受支拂又ハ擔保ノ要求及ヒ拒絶並ニ拒絶ノ理由

第四 右要求及ヒ拒絕ノ日並ニ場所

第五 榮譽引受又ハ榮譽支拂アルトキハ其旨

第六 年月日場所及ヒ臨席總員ノ署名捺印

第七 第七百九十三條ノ場合ニ於テハ拒書ノ承諾

若シ者ガ署名捺印スルコトヲ欲セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ
證書ニ明記ス可シ

第七百九十六條 第七百九十一條乃至第七百九十四條ノ規定ハ引受又ハ支拂ノ爲メ
ニスル呈示爲替手形數通ノ要求其他本章ノ規定ニ從ヒ或人ノ方ニテ爲ス可キ行爲
ニモ之ヲ適用ス

第七百九十七條 第七百十條及ヒ第七百十一條ノ場合ニ於テハ其情況ヲ拒證書ニ明
示シ且成ル可ク詳細ニ爲替手形ノ旨趣ヲ記シテ爲替手形ノ全文ニ代フ

第七百九十八條 裁判所ノ役員又ハ公證人ハ其作リタル拒證書ノ全文ヲ日日帳簿ニ

記入シ且被拒者ノ求ニ因リテ數通ニ之ヲ作ル義務アリ

拒證書作成ノ費用ハ被拒者之ヲ立替フルコトヲ要ス

第十款 戻爲替手形

第七百九十九條 所持人ハ償還金額ニ付キ各償還義務者ニ對シテ戻爲替手形ヲ振出
スコトヲ得

第八百條 戻爲替手形ノ費用ノ額ハ仲買人手數料仲立人手數料郵便稅印紙稅及ヒ支
拂地ヨリ償還義務者ノ住地ニ宛テ振出シタル一覽拂爲替手形ノ相場ニ因リテ定マ
ル

右ノ相場ハ戻爲替手形ヲ遞次振出ス場合ト雖モ本爲替手形ノ支拂地ヨリ振出地ニ
宛テタル一覽拂爲替手形ノ相場ヲ超ユルコトヲ得ス

第八百一條 戻爲替手形ニハ拒マレタル爲替手形、拒證書及ヒ償還計算書ヲ添フ可
シ

第八百二條 戻爲替手形ヲ支拂ヒタル者ハ其前者中ノ一人ニ宛テ更ニ戻爲替手形ヲ振出スコトヲ得

第十一款 資金

第八百三條 振出人又ハ自己ノ計算ニテ爲替手形ヲ振出サシメタル者又ハ明示シテ爲替資金ヲ供スル義務ヲ負ヒタル裏書讓渡人ハ支拂人ニ對シテ爲替資金ヲ供スル義務ヲ負フ

第八百四條 現金支拂ノ外爲替資金義務者カ支拂人ニ對シテ有スル債權又ハ信用ハ之ヲ爲替資金ニ充ツルコトヲ得

第八百五條 方式ニ依ラサル引受ト雖モ其引受ニ依リテ引受人カ爲替資金義務者ヨリ爲替資金ヲ受取リタリトノ推定ヲ生ス但參加引受ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第八百六條 爲替資金義務者ト所持人トノ間ニ在テハ爲替手形ノ引受ニ依リテ爲替

資金ヲ供シタリトノ推定ヲ生セス

第八百七條 爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル支拂人ハ爲替資金ノ請求權ヲ爲替ノ原則ニ從ヒテ主張スルコトヲ得

第八百八條 支拂人ニ代ハリテ爲替手形ノ支拂ヲ爲シタル者ハ支拂人又ハ償還義務者ニ對シテ所持人ノ權利ヲ主張スルコトヲ得

第八百九條 振出人及ヒ裏書讓渡人ハ爲替資金ヲ供シタルモ爲替手形ノ引受及ヒ支拂ニ付キ連帶ノ責任ヲ免カル、コトヲ得然レトモ其責任ハ別段ノ契約ヲ以テ其契約者間ニ於テノミ之ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

第八百十條 支拂人ハ爲替資金ヲ受取リタルトキハ勿論假令之ヲ受取ラサルモ振出人其他ノ爲替資金義務者ニ對シ爲替手形ノ引受及ヒ支拂ノ義務ヲ明示ニテ負擔シタルトキハ引受若クハ支拂ヲ爲サルニ因リテ振出人其他ノ爲替資金義務者ニ生セシメタル損害ニ付キ責任ヲ負フ但此損害ニ付テノ請求ハ豫メ之ヲ支拂人ニ通知

スルコトヲ要セス

第二節 約束手形

第八百十一條 約束手形ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 振出ノ年月日及ヒ場所

第二 支拂金額但文辭ヲ以テ記ス可シ

第三 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨

第四 満期日

第五 振出人ノ署名捺印

第八百十二條 約束手形ハ振出人ノ指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得ス

第八百十三條 約束手形ニ別段ノ支拂地ヲ掲ケサルトキハ振出ノ場所ニ於テ其支拂

ヲ爲スコトヲ要ス

第八百十四條 約束手形ノ振出人ハ其振出ニ因リテ満期日ニ支拂ヲ爲ス義務ヲ負擔

ス

振出人ニ對シテ爲替權利ヲ保全スルニハ引受ヲモ支拂ノ爲メノ呈示ヲモ拒証書ノ作成ヲモ要スルコト無シ然レトモ一覽後定期拂ノ約束手形又ハ他所拂人ヲ掲ケタル約束手形ニ在テハ其振出人ニ關シテモ第七百三十五條及ヒ第七百七十八條ノ規定ヲ適用ス

第八百十五條 右ノ外爲替手形ニ關スル規定ハ性質上抵觸セサルモノニ限り約束手形ニモ之ヲ適用ス

第三節 小切手

第八百十六條 小切手ハ寄託其他ノ方法ニ依リ銀行ニ對シテ繼續スル信用ヲ有スル者カ其銀行ニ依頼シ之ヲ記名セラレタル人又ハ指圖セラレタル人若クハ所持人ニ呈示ヲ受ケ次第或ル金額ヲ支拂ハシムル證券タリ

第八百十七條 小切手ニハ年月日ヲ記シ振出人署名、捺印ス可シ又小切手ハ一覽拂

トスルニ非サレハ之ヲ振出スコトヲ得ス其他銀行ト明示又ハ黙示ニテ約定シタル振出ノ方式ハ之ヲ遵守スルコトヲ要ス

第八百十八條 小切手ハ裏書ヲ以テ之ヲ轉付スルコトヲ得若シ裏書讓渡ノ署名捺印ノミヲ以テ裏書讓渡ヲ爲シタルトキ又ハ無記名式ニテ振出シタルトキハ交付ニ因リテ之ヲ轉付スルコトヲ得

第八百十九條 小切手ハ引受ヲモ拒證書ヲモ要スルコト無シ又小切手ハ日附後三年ヲ以テ時効ニ罹ル小切手ハ同地内ニ於テハ日附後五日内又振出地ト支拂地ト同シカラサルトキハ十日内ニ其支拂ヒヲ請求ス可シ

第八百二十條 呈示ノ上ニテ支拂ヲ受ケサルトキハ同地内ニ於テ日附後十日内又振出地ト支拂地ト同シカラサル場合ニ於テハ二十日内ニ所持人ハ裏書讓渡人若クハ振出人ニ對シ裏書讓渡人ハ其前者若クハ振出人ニ對シテ償還請求權ヲ有ス但右ノ期限ヲ過キタルモ裏書讓渡人カ請求ヲ受ケタル翌日ニ爲シタル償還請求ハ有効ナ

振出人ニ對シテハ振出人カ信用ヲ有セス又ハ信用ヲ消盡シ又ハ依頼ヲ取消シタルトキハ右期間ノ滿了後ト雖モ償還請求權ヲ有ス

振出人ハ爭アル場合ニ在テハ其小切手帳及ヒ通帳ヲ裁判所ニ差出ス義務アリ

第八百二十一條 振出人又ハ所持人ハ小切手ニ横線ヲ附シ其横線内ニ特ニ銀行ノミニ支拂フ可キ旨ヲ記載スルコトヲ得

第八百二十二條 小切手ハ支拂金ヲ受取ル時受取證ヲ記シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第八百二十三條 日附ヲ爲サス若クハ虚偽ノ日附ヲ爲シテ小切手ヲ振出シ裏書讓渡シ若クハ之ニ受取證ヲ記スル者又ハ日附ナキ小切手ヲ受取り支拂ヒ若クハ之ニ受取證ヲ記スル者又ハ相當ノ信用ナクシテ小切手ヲ振出シ若クハ正當ノ理由ナクシテ依頼ヲ取消ス者ハ小切手金額ノ百分ノ十ノ過料ニ處ス若シ刑法上ノ刑ニ處ス可

キ行爲アルトキハ併セテ其刑ニ處ス
前項ノ過料ニ付テハ第二百六十一條第一項ノ規定ヲ適用ス

10/14/35

改正商法手形法終

明治二十九年八月十六日印刷
全 二十九年八月廿六日發行

定價金三十錢

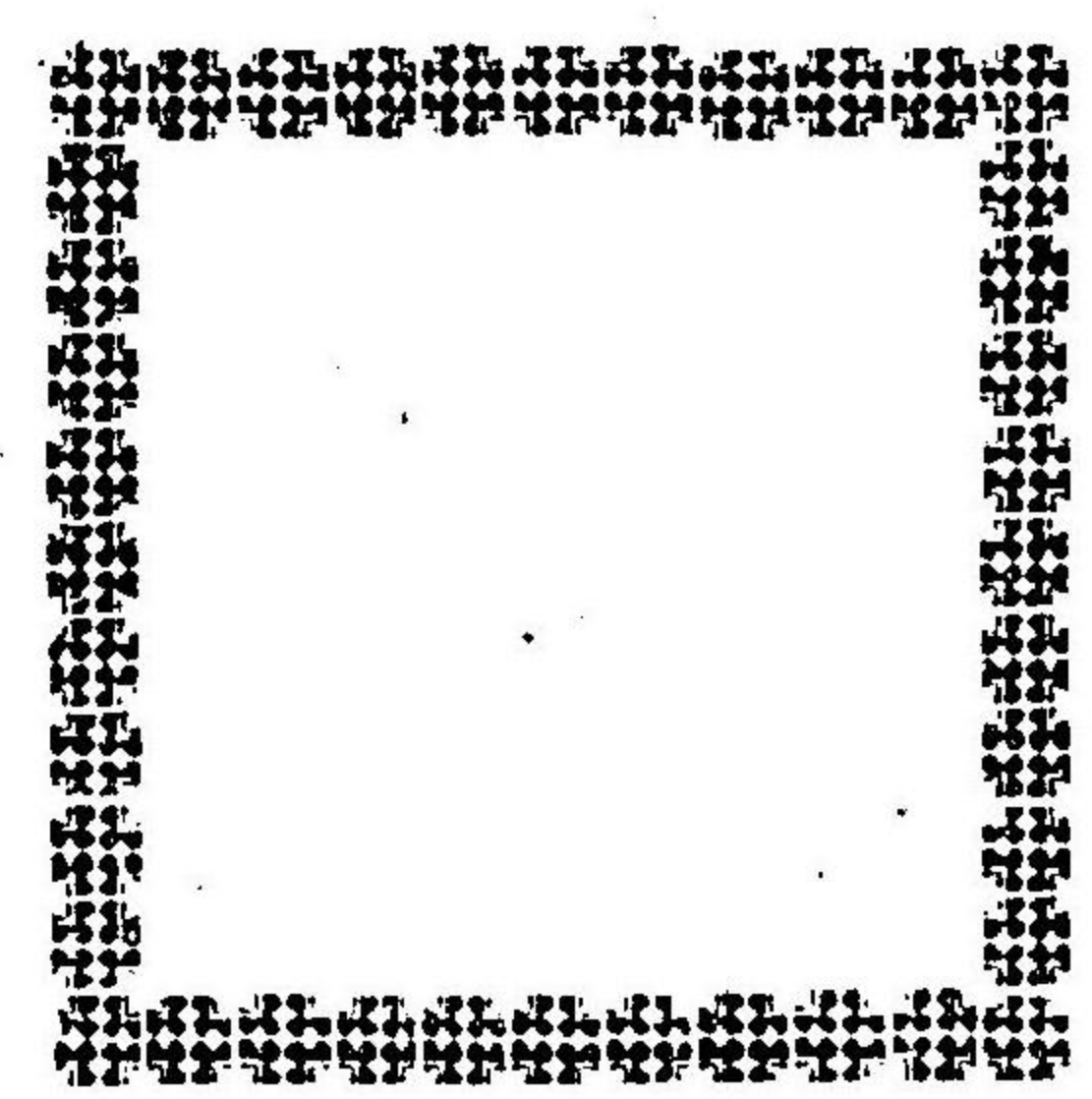
著作者 奧村正人

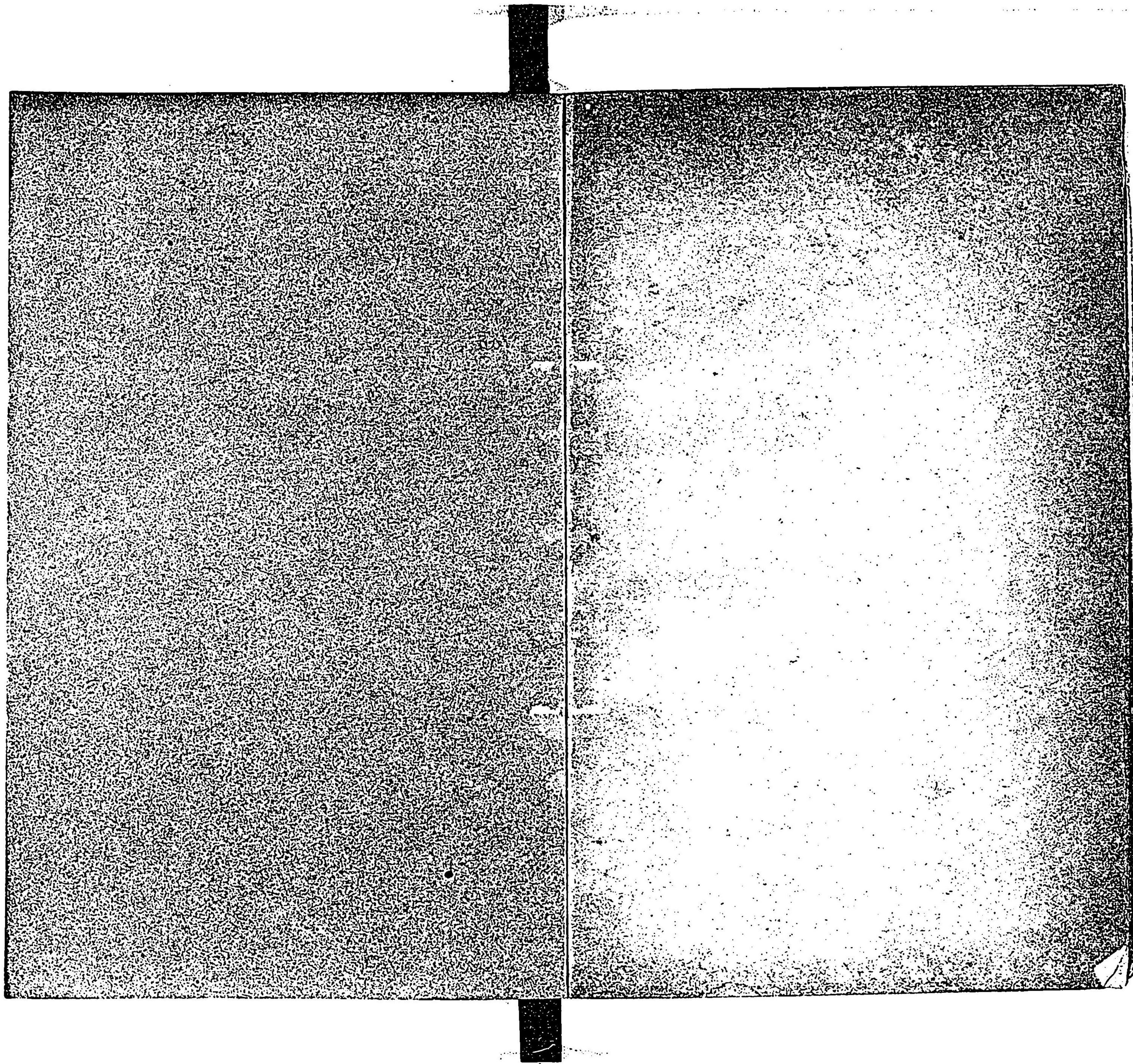
發行者 青木恒三郎
大阪市東區博勞町四丁目廿七番屋敷

印刷者 吉村武右衛門
大阪市東區博勞町三丁目五十二番屋敷

發賣所 青木嵩山堂
東京市日本橋區通壹丁目

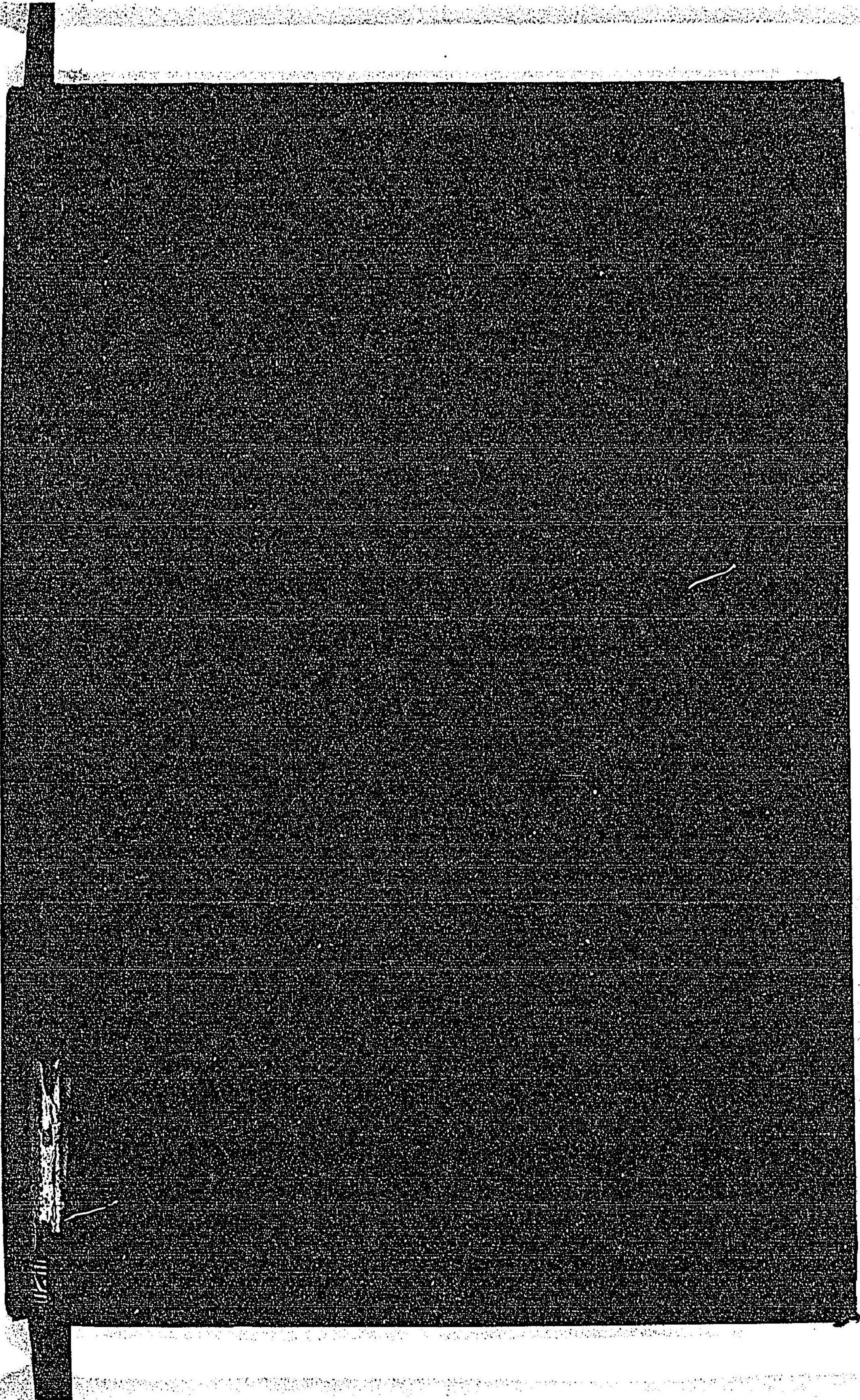
發賣所 青木嵩山堂
大阪市東區心齋橋筋博勞町





72

329





035456-000-5

72-329

約束手形実用註釈

奥村 正人/著

M29

BBO-0656



